

今年度のアンケート結果と 翌年度の取組方針について

令和 8 年 3 月 27 日
環境省 環境再生グループ

環境再生に関する技術等検討会
(第 2 回)

1. WEBアンケート調査の結果について（前年比）

- 県外最終処分、復興再生利用について、県内・県外とも認知度は昨年比でおおむね横ばいで推移。
- 復興再生利用の「安全性認知」、「賛否」、「お住まいの地域での利用是非」については肯定的評価のポイントが上昇傾向。必要性はおおむね横ばい。安全性が条件として最も高い。
- なお、復興再生利用の関心については減少傾向。

令和7年度WEBアンケート結果概要 ()内は前年度の数値。新規設問としているものは、本年から新たに設問を追加したもの。

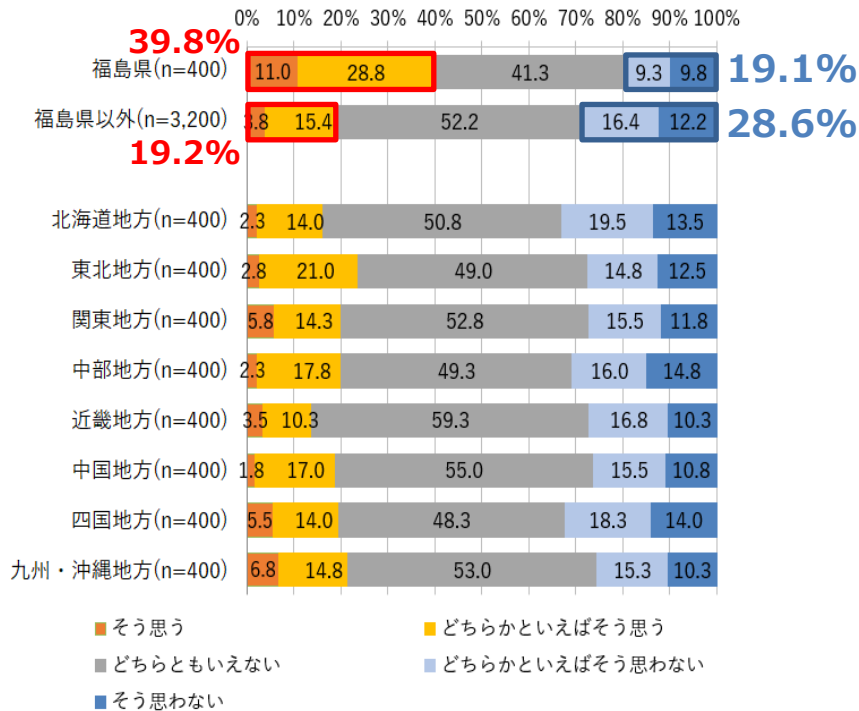
区分		認知度	関心度	安全性認知 (安全)	必要性認知 (必要)	賛否 (賛成)	居住地での 実施是非 (賛成)	情報 入手 経路	実施 必要 条件	社会的 理解 必要条件	関心 事項
復興 再生 利用	県内	43.3% (44.2%)	41.0% (46.5%)	39.8% (33.6%)	44.5% (43.2%)	44.6% (39.3%)	39.5% (32.2%)	テレビ (民放/ NHK)が 多	「安全性 の担保」 が多	「安全性 の担保」 が多	「減容・復興再生利用の安全性」が多
	県外	16.6% (15.1%)	26.7% (32.5%)	19.2% (15.9%)	32.3% (31.8%)	27.0% (25.2%)	22.9% (20.9%)				
	傾向	横ばい (→)	やや低下 (↘)	やや向上 (↗)	横ばい (→)	やや向上 (↗)	やや向上 (↗)				
県外 最終 処分	県内	54.8% (55.0%)	—	39.1% (新規設問)	—	46.1% (新規設問)	31.3% (新規設問)	テレビ (民放/ NHK)が 多	「安全性 の担保」 が多	—	—
	県外	23.3% (24.8%)		20.3% (新規設問)		25.5% (新規設問)	20.3% (新規設問)				
	傾向	横ばい (→)		<新規>		<新規>	<新規>				

※前後比較において、スコアが+2ポイント以上を「やや向上」、-2ポイント以上を「やや低下」として整理している。
 ※令和7年度WEBアンケート：調査実施：令和7年10月 回答者数：3,600名（福島県以外：3,200名、福島県：400名）

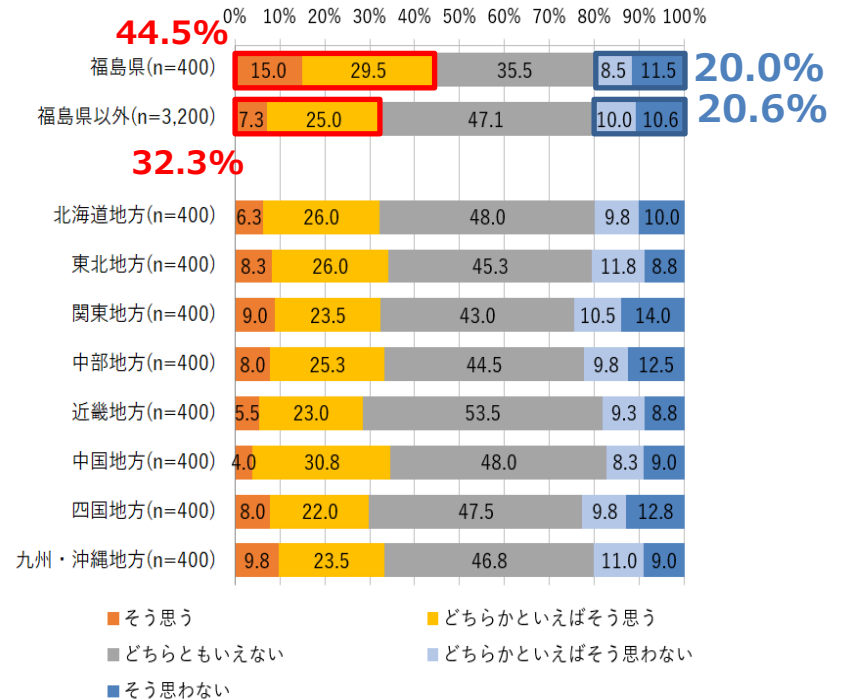
1. WEBアンケート調査の結果について（単年度分析）

- 復興再生利用の安全性の理解について、福島県と福島県外で、肯定的評価と否定的評価の比率が大きく異なる。背景として、放射線の知識に関して地域差がある可能性。
- 他方で、復興再生利用の必要性については、肯定的評価と否定的評価の比率の地域間の乖離はそこまで大きくない。

【復興再生利用の安全性理解】



【復興再生利用の必要性理解】



➡全国的な理解醸成には、復興再生利用の安全性のわかりやすい発信が鍵。

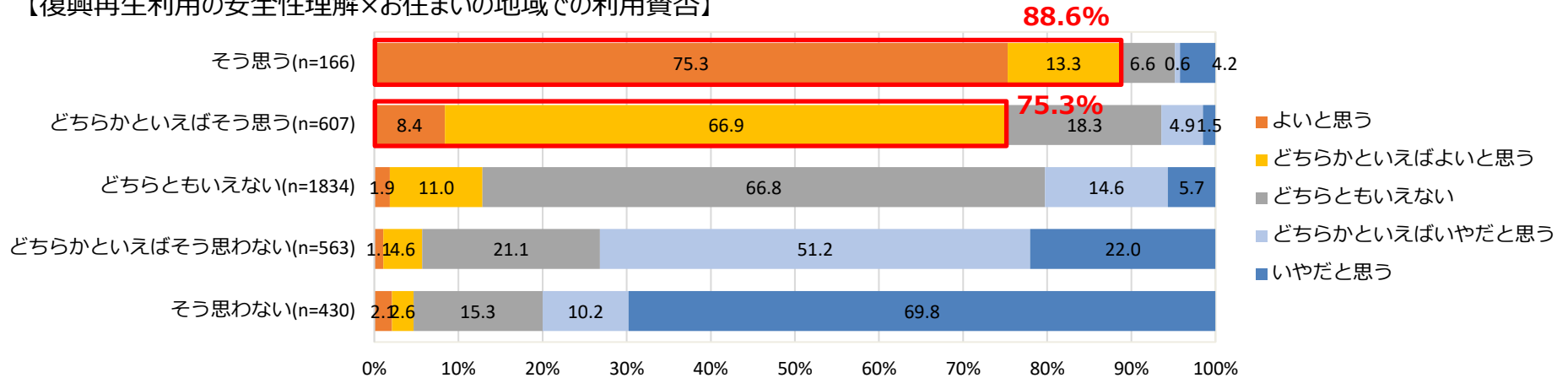
前提となる放射線に関する理解の向上が、安全性の理解向上に寄与する可能性。

※令和7年度WEBアンケート：調査実施：令和7年10月 回答者数：3,600名（福島県以外：3,200名、福島県：400名）

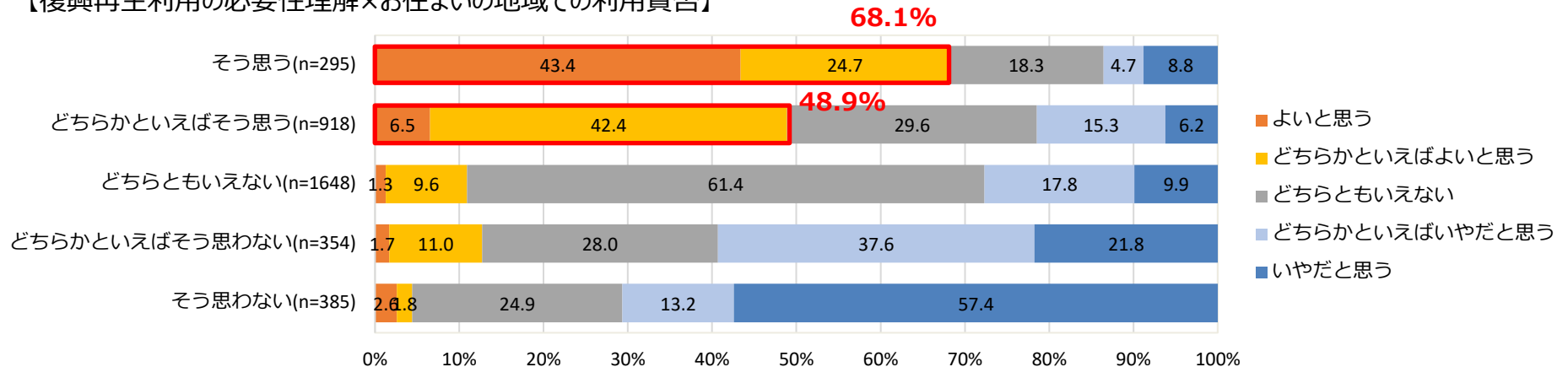
1. WEBアンケート調査の結果について（単年度分析）

- 復興再生利用の必要性の認知と、安全性の認知の軸で、自らの居住地での復興再生利用の賛否をクロス集計すると、安全性を認知している層の方が居住地での賛成の比率が高い。

【復興再生利用の安全性理解×お住まいの地域での利用賛否】



【復興再生利用の必要性理解×お住まいの地域での利用賛否】

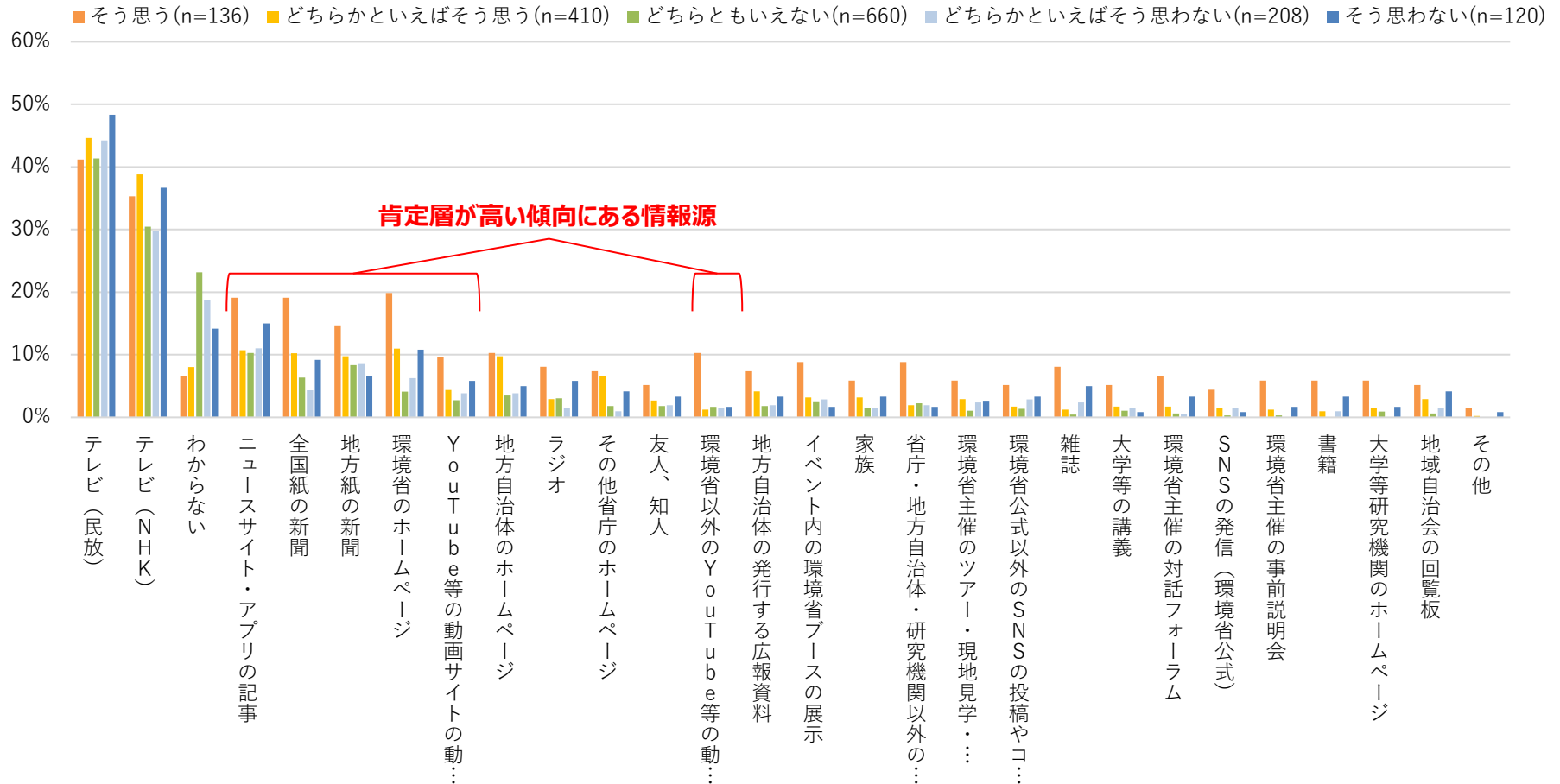


➡復興再生土の活用に向けては、安全性の認知を高めることがより重要である可能性。

1. WEBアンケート調査の結果について（単年度分析）

- 復興再生利用の安全性に肯定的な層は、復興再生利用の情報源として相対的に高いもののうち、ニュースサイト・アプリの記事、新聞、環境省のHP、動画サイトの割合が高い。

【復興再生利用の安全性理解×認知経路】



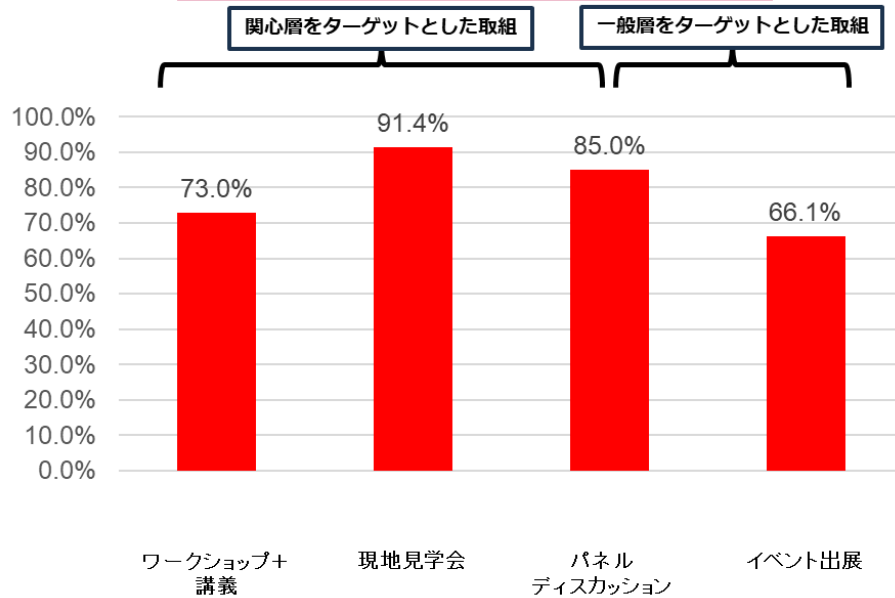
➡安全性の効果的発信に向けてメディアの選択が重要。

2. 施策別アンケート（施策別効果）

- ワークショップ、現地見学会、パネルディスカッション、イベント出展において、参加者に対する事後アンケートを実施。
- **いずれも、安全性、必要性ともに一定の理解醸成に貢献していると考えられる。**
とりわけ現地見学会が他の取組に比して特に必要性・安全性への理解が相対的に高かった。
※現地見学会は、関心が高い方が母集団となっている可能性に留意。

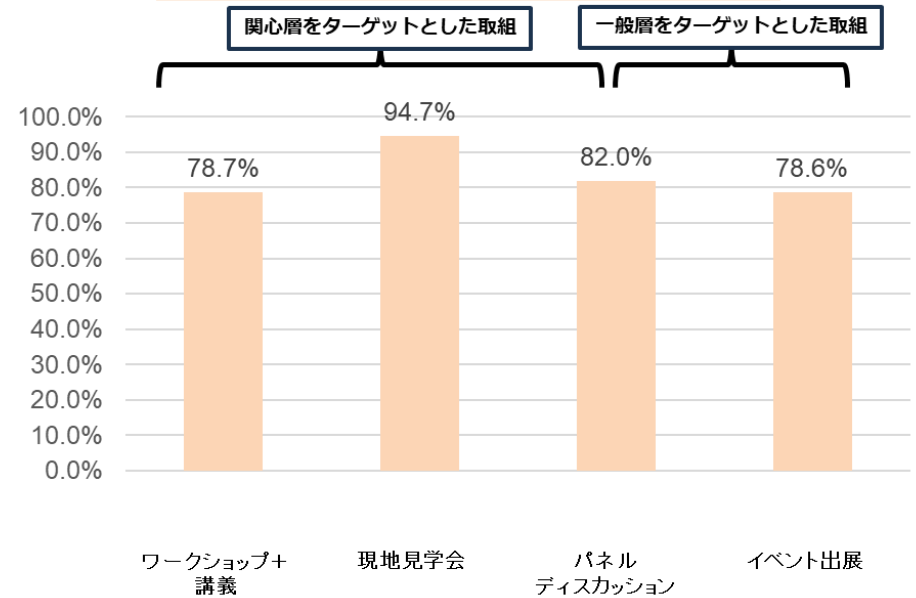
【復興再生利用の安全性】

※「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合（肯定的な意見の回答割合）



【復興再生利用の必要性】

※「そう思う／どちらかといえばそう思う」と回答した者の割合（肯定的な意見の回答割合）

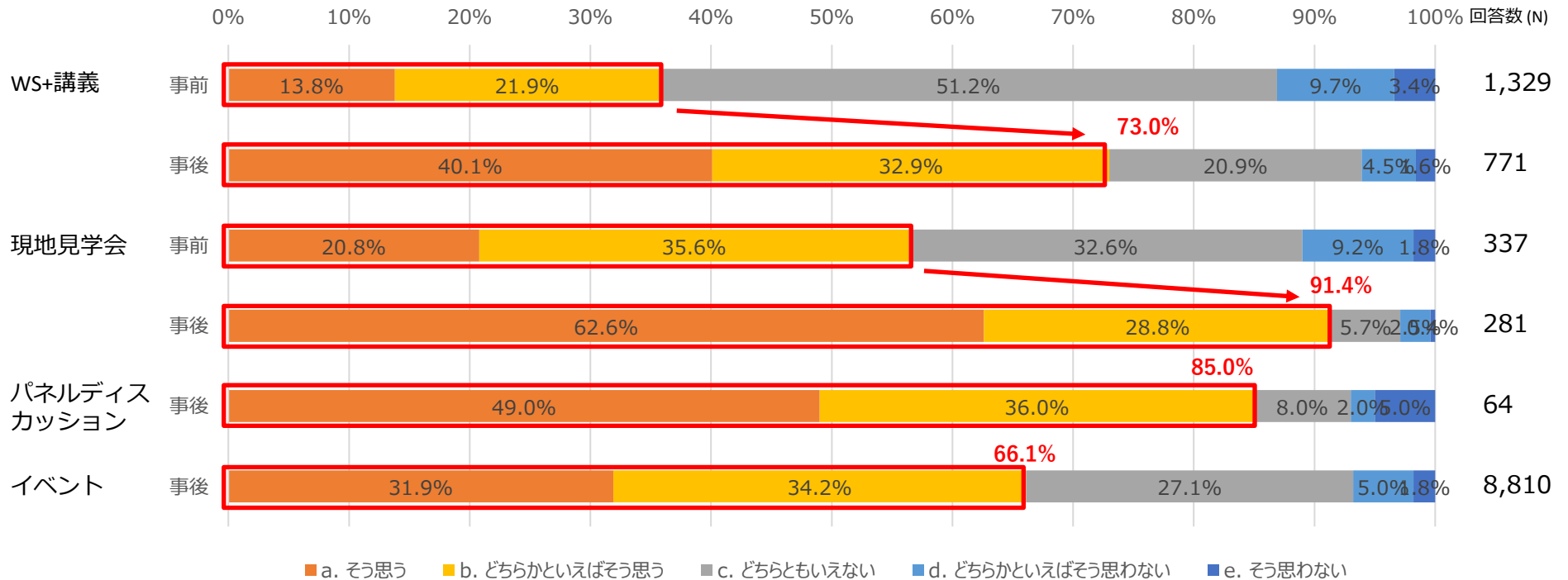


※2025年7月～12月に実施した、現地視察会、講義、イベント、パネルディスカッションで取得したアンケートを集計した結果。サンプルサイズ（N）：11,592(全体)
 ※全国アンケートと施策アンケートは母集団が異なるため、単純比較には留意が必要であるが、同一設問・同一尺度に基づく傾向比較として示している。

2. 施策別アンケート（安全性に関する施策の効果）

- 安全性について事後の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が**最も高かったのは現地見学会**。
- WS+講義および現地見学会のいずれにおいても、事前と比較して事後の肯定的回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）が増加した。
- **肯定的な回答**（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は、**現地見学会で35.0pt、WS+講義で37.3pt、それぞれ事後で大幅に伸長した**。

【施策比較：復興再生利用の安全性理解】

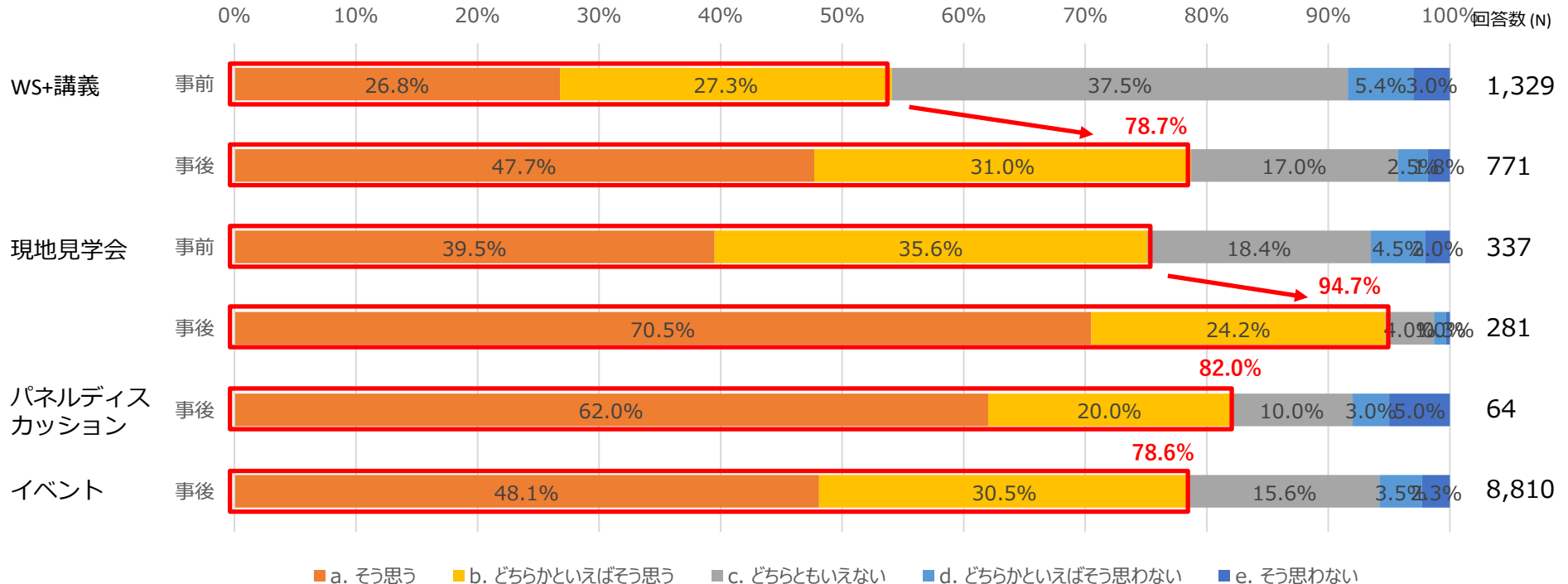


※2025年7月～12月に実施した、現地見学会、講義、イベント、パネルディスカッションで取得したアンケートを集計した結果。サンプルサイズ (N) : 11,592(全体)
 ※全国アンケートと施策アンケートは母集団が異なるため、単純比較には留意が必要であるが、同一設問・同一尺度に基づく傾向比較として示している。

2. 施策別アンケート（必要性に関する施策の効果）

- 必要性について事後の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」が**最も高かったのは現地見学会**。
- WS+講義および現地見学会のいずれにおいても、事前と比較して事後の肯定的回答（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」）が増加した。
- **肯定的な回答**（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計）の割合は、**現地見学会で19.6pt、WS+講義で24.6ptと、それぞれ事後で伸長した。**

【施策比較：復興再生利用の必要性理解】



※2025年7月～12月に実施した、現地見学会、講義、イベント、パネルディスカッションで取得したアンケートを集計した結果。サンプルサイズ (N) : 11,592(全体)
 ※全国アンケートと施策アンケートは母集団が異なるため、単純比較には留意が必要であるが、同一設問・同一尺度に基づく傾向比較として示している。

- 福島県内除去土壌等の県外最終処分の実現に向けた、理解醸成活動の一環として、除去土壌等の県外最終処分・復興再生利用についてともに考え、**理解を深めるためのパネルディスカッションを計5回実施。**
(福島開催：R7/8/18 東京開催：R7/9/5、6 宮城開催：R8/3/15 埼玉開催：R8/3/18)
- **参加者から申込フォームや付箋で募集した疑問や意見を中心に、パネリスト間の議論のテーマを設定。**

<R8/3/15 (宮城開催)の様子>



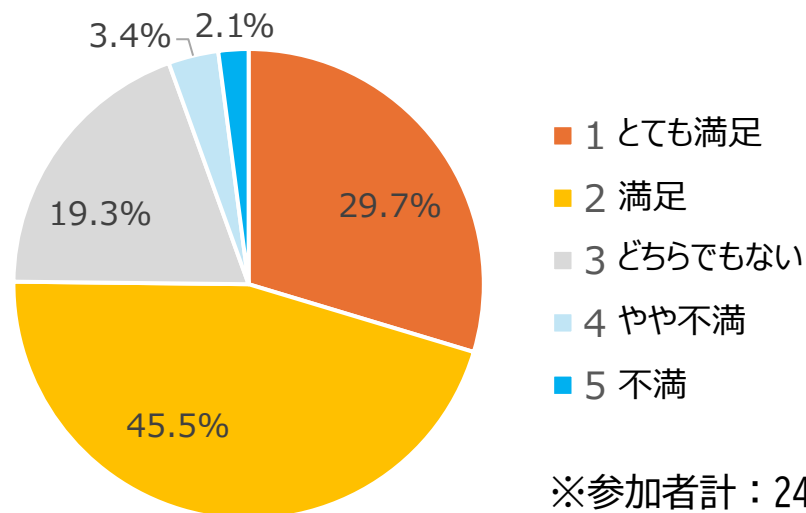
○パネリスト：学識経験者、宮城県出身のタレント、福島の方、環境省

<R8/3/18 (埼玉開催)の様子>



○パネリスト：学識経験者、埼玉県出身のタレント、福島の方、環境省

<参加者の満足度アンケート (5日間合計) >



※参加者計：240名
回答数：145名

アンケート調査の結果のまとめと今後の方向性

- **現地見学会や講義、WSといった対面型の個別施策では着実な成果が得られている。**今後、この成果を全国的な認知向上につなげるべく、**マス向けの取組を一層進めることが必要。**
- その際、復興再生利用の拡大に向けては、**安全性の理解促進を図ることが効果的である可能性。**
(他の研究でも、復興再生土に関する情報ニーズのうち放射線被ばくの影響に関するものが多く、また復興再生利用の受容性と放射線の知識が影響することが示されている※)
- **社会的受容性の向上**のためには単なる認知拡大に留まらず、今後は復興再生利用に対する**中庸層（どちらともいえない）の意識変容を、重要な指標として注視**すべきではないか。

今後の方向性（案）

- **現地見学会、ワークショップ等の関心層向け、イベント、メディア向け発信等の比較的リーチの広い手法は継続しつつ、より広範な一般層（マス）向けへの拡充・内容の強化を意識。**
- **現地見学会**
 - 効果が高い**現地見学会をより広範な層にも拡大**すべく、**浜通りへの人流の創出（＝観光との連携等）と現地での受入れ体制強化に取り組む。**
 - 若い世代やメディア等のこれまでのリーチ層に加え、今後は地域での受入れに向けて**自治体関係者向けの見学会を強化**する。
- **一般向け広報**
 - 福島県内外の放射線に関する認識状況を踏まえて、**放射線に関するわかりやすい発信を強化（呼称の定着含む）**
 - とりわけ、**安全性に関する情報発信、メディア向けの発信などを軸**にしつつ、効果的なものとなるよう**全国の都市・地域でマス向けに目に触れやすい発信を実施。**

※ Tomoko Watanabe.et.al. 'Bipolarization in the acceptance of reusing contaminated soil generated by the Fukushima Daiichi Nuclear Power Station accident of 2011' Progress in Disaster Science(2025)

(参考)
アンケートデータ詳細

1. WEBアンケート

- 目的：除去土壌の県外最終処分・復興再生利用に関する現状の関心や認知度等を把握する。
- 実施期間：令和7年10月17日（金）～ 10月20日（月）
- 対象者：20代～60代の男女

✓ 令和7年度回答者：3,600名 ※（福島県以外：3,200名、福島県：400名）
北海道：400名、東北（福島県除く）：400名、関東：400名、中部：400名、近畿：400名、
中国：400名、四国：400名、九州・沖縄：400名

※令和7年度で8回目となる本WEBアンケートは、新規・継続の回答者を分けず実施しています。

✓ 令和6年度回答者：3,600名 ※（福島県以外：3,109名、福島県：491名）
北海道：385名、東北（福島県除く）：388名、関東：435名、中部：385名、近畿：394名、
中国：383名、四国：376名、九州・沖縄：363名

※令和6年度で7回目となる本WEBアンケートは、新規回答者の他に、以下のような連続回答者を含んでいます。

- ・新規回答者数：1,800名（福島県以外：1,520名、福島県：280名）
- ・2年連続(令和5年度～令和6年度)回答者数：448名（福島県以外：404名、福島県：44名）
- ・3年連続(令和4年度～令和6年度)回答者数：150名（福島県以外：134名、福島県：16名）
- ・4年連続(令和3年度～令和6年度)回答者数：140名（福島県以外：121名、福島県：19名）
- ・5年連続(令和2年度～令和6年度)回答者数：159名（福島県以外：136名、福島県：23名）
- ・6年連続(平成31年度～令和6年度)回答者数：824名（福島県以外：742名、福島県：82名）
- ・7年連続(平成30年度～令和6年度)回答者数：79名（福島県以外：52名、福島県：27名）

● 質問事項

- ✓ 令和6年度からの継続質問事項
Q1～Q3、Q7～Q19
- ✓ 令和7年度新規質問事項
Q4～Q6、Q20～Q23

質問番号	質問事項
Q 1	<p>あなたは、福島第一原子力発電所事故後の除染作業によって生じた土壌(以下、「除去土壌」という)等が中間貯蔵開始後30年以内(2045年の3月まで)に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。</p> <p>なお、今回や過去実施された本WEBアンケートを通じてのみ知ったという場合は、「聞いたことが無かった」とお答えください。</p>
Q 2	<p>あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、何で情報を得ましたか。</p>
Q 3	<p>あなたは、除去土壌等の県外最終処分を進める上でどのような条件が整っている必要があると思いますか。</p>
Q 4	<p>あなたは、除去土壌等の県外最終処分は安全だと思いますか。</p>
Q 5	<p>あなたは、除去土壌等の県外最終処分を進めることに賛成ですか。それとも反対ですか。</p>
Q 6	<p>あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌等の最終処分が実施されてもよいと思いますか。</p>
Q 7	<p>県外最終処分に向け、除去土壌等の最終処分量を低減するためには、減容・復興再生利用が必要であり、環境省では、除去土壌の復興再生利用の実証事業を行っております。</p> <p>あなたは、除去土壌の復興再生利用(農地の造成や道路の盛土等)について、その内容をどの程度ご存知でしたか。</p> <p>なお、今回や過去実施された本WEBアンケートを通じてのみ知ったという場合は、「聞いたことが無かった」とお答えください。</p>
Q 8	<p>あなたは、除去土壌の復興再生利用について、何で情報を得ましたか。</p>
Q 9	<p>あなたは、除去土壌の復興再生利用について、どの程度関心をお持ちですか。</p>
Q 10	<p>あなたは、除去土壌を復興再生利用する必要があると思いますか。</p>

質問番号	質問事項
Q11	あなたは、除去土壌の復興再生利用は安全だと思いますか。
Q12	あなたは、除去土壌の復興再生利用を進めることに賛成ですか、それとも反対ですか。
Q13	あなたは、除去土壌の復興再生利用を進める上でどのような条件が整っている必要があると思いますか。
Q14	あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌の復興再生利用が実施されてもよいと思いますか。
Q15	あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌の復興再生利用が実施される上でどのような条件が整っている必要があると思いますか。
Q16	あなたは、除去土壌の復興再生利用を進めることについて社会的に理解を得ることは可能であると思いますか。
Q17	除去土壌の復興再生利用を進めることについて社会的に理解を得る上でどのような条件が整っている必要がありますか。
Q18	除去土壌の復興再生利用に関する以下の内容で特に関心のある事項をお答えください。
Q19	除去土壌の復興再生利用の理解を深めるために、環境省が実施すべきことは何だと思いますか。
Q20	あなたは、除去土壌の復興再生利用について、政府より国際的な安全基準に基づいたガイドラインが公表され、ロードマップに基づき積極的に推進することが示されたことを、どの程度ご存じでしたか？
Q21	あなたは、除去土壌の復興再生利用の積極的な推進の提示について、何で情報を得ましたか。
Q22	あなたは、除去土壌の復興再生利用の推進にあたり、そのガイドラインやロードマップについて、どの程度理解していますか？
Q23	除去土壌の復興再生利用等の理解醸成のために、環境省が実施する取組について、知っているものを教えてください。
Q24	除去土壌の復興再生利用に関して、ご意見があればご記入下さい。

Q1の回答

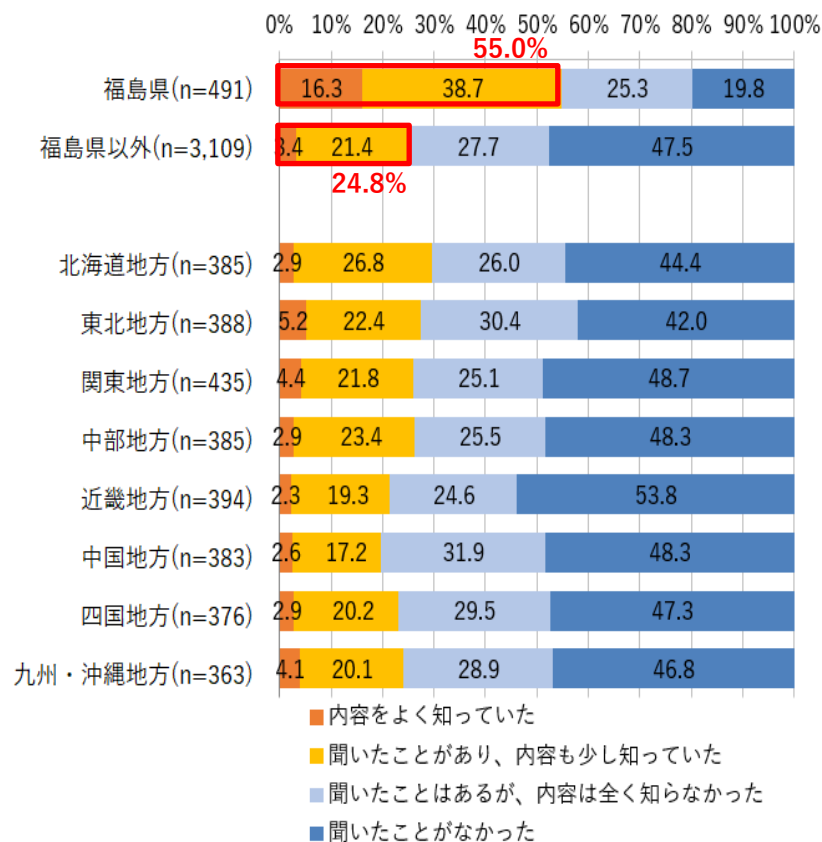
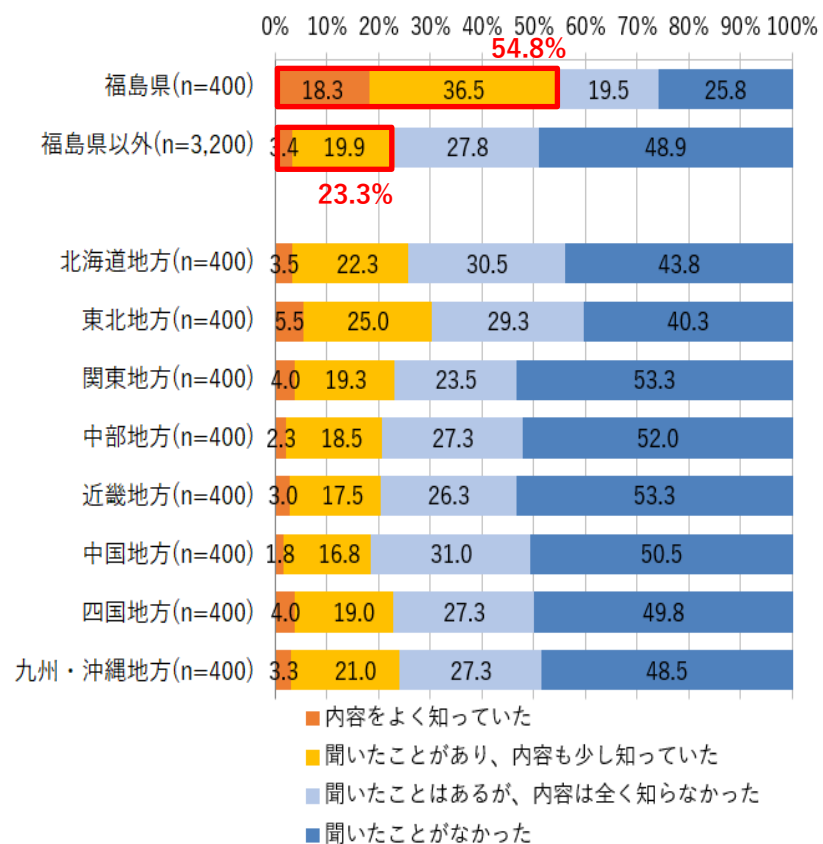
Q1：あなたは、福島第一原子力発電所事故後の除染作業によって生じた土壌(以下、「除去土壌」という)等が中間貯蔵開始後30年以内(2045年の3月まで)に福島県外において最終処分されると法律で定められていることをどの程度ご存知でしたか。

なお、今回や過去実施された本WEBアンケートを通じてのみ知ったという場合は、「聞いたことがなかった」とお答えください。

「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」を合わせた回答は、福島県では約54%、福島県以外では約23%となっており、概ね横ばいで推移している。

【令和7年度】

【令和6年度】

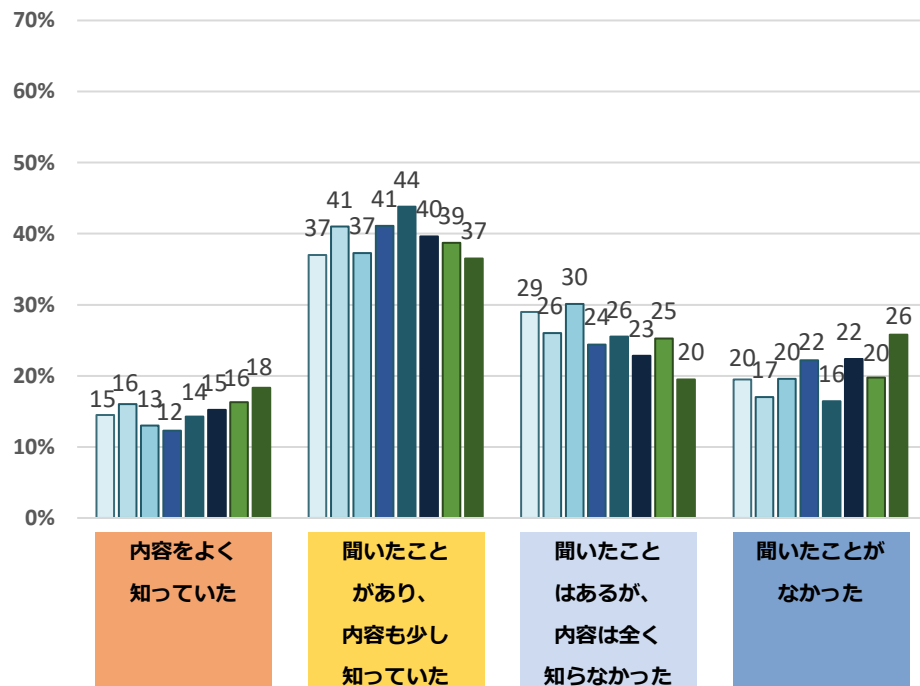


(参考) 福島県内外別の推移 (Q1県外最終処分の方針の認知)

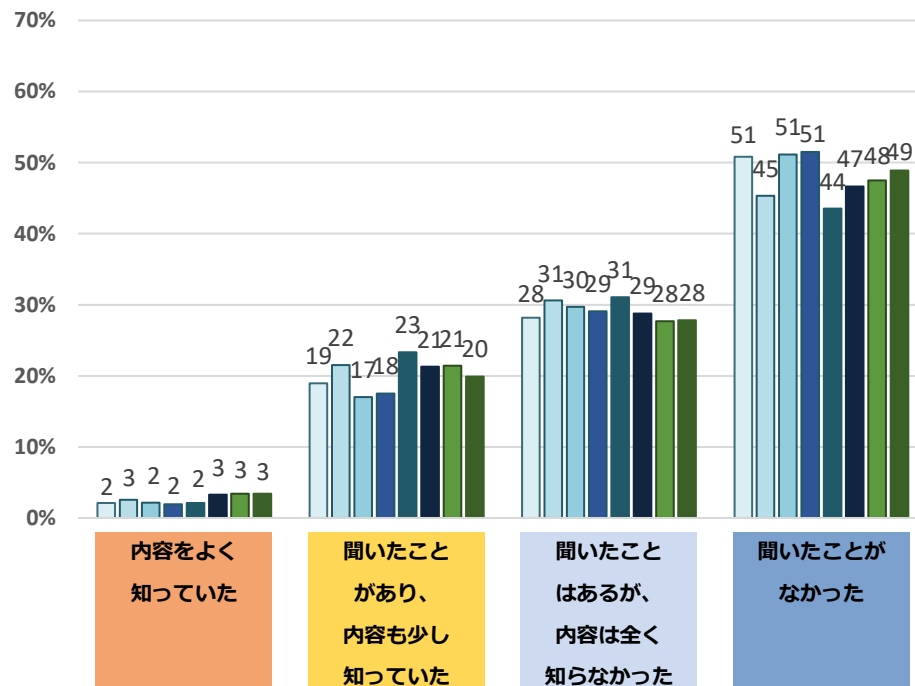
県外最終処分の方針の認知は、福島県内外で横ばいに推移している。

【県外最終処分の方針の認知】

福島県



福島県以外

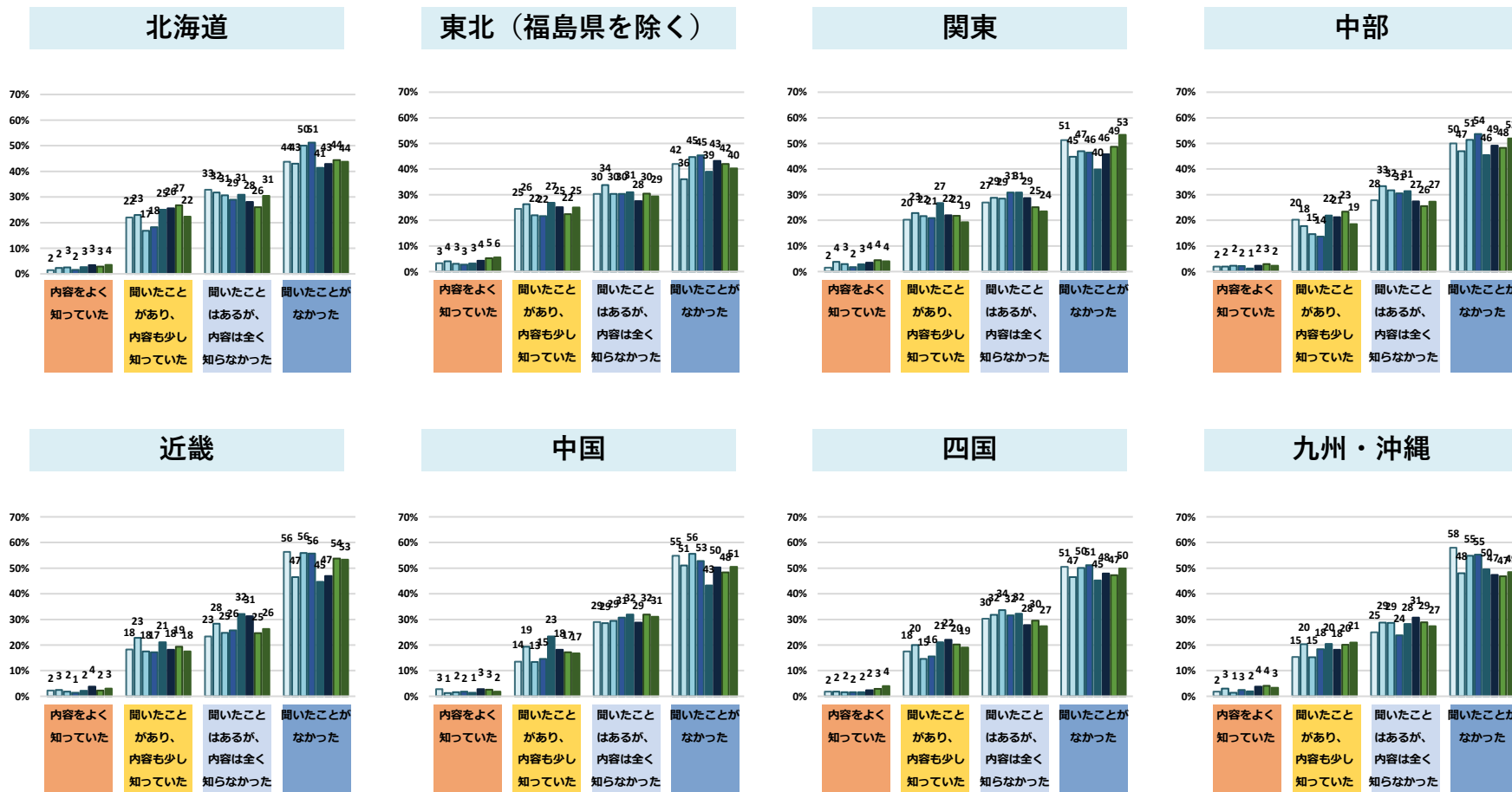


□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

(参考) 県外エリア別の推移 (Q1県外最終処分の方針の認知)

県外最終処分の方針の認知について、エリアごとに顕著な差は見られないが、西日本では「聞いたことがなかった」の割合がやや高い傾向にある。

【県外最終処分の方針の認知】

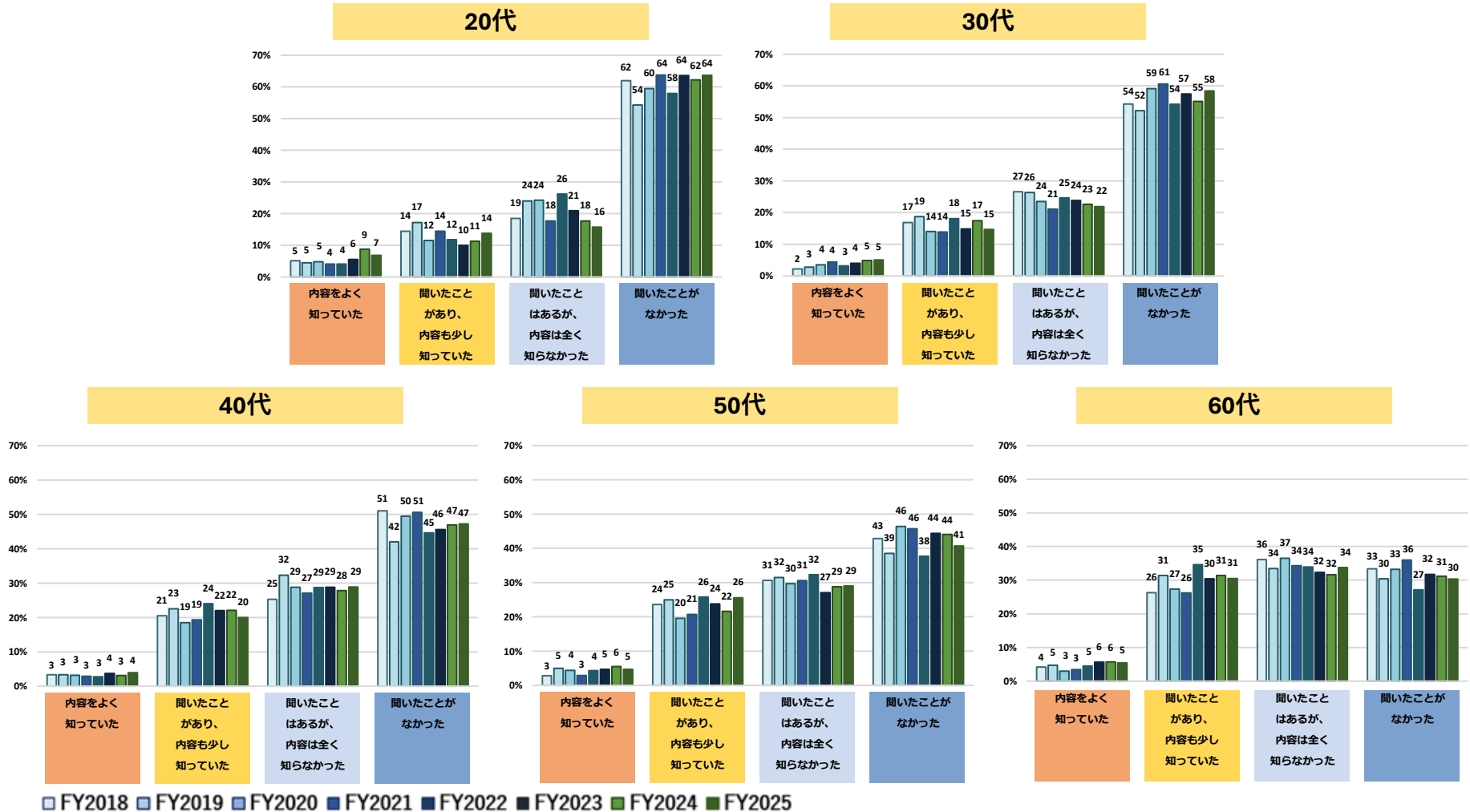


□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 □ FY2021 □ FY2022 □ FY2023 □ FY2024 □ FY2025

(参考) 年代別の推移 (Q1県外最終処分の方針の認知)

20代～30代では「聞いたことがなかった」の割合が高く、それ以外の選択肢の割合は低い傾向にあるが、40代～60代では、他の選択肢の割合が高くなり、特に60代では「内容をよく知っていた」以外がほぼ同じ割合となっている。

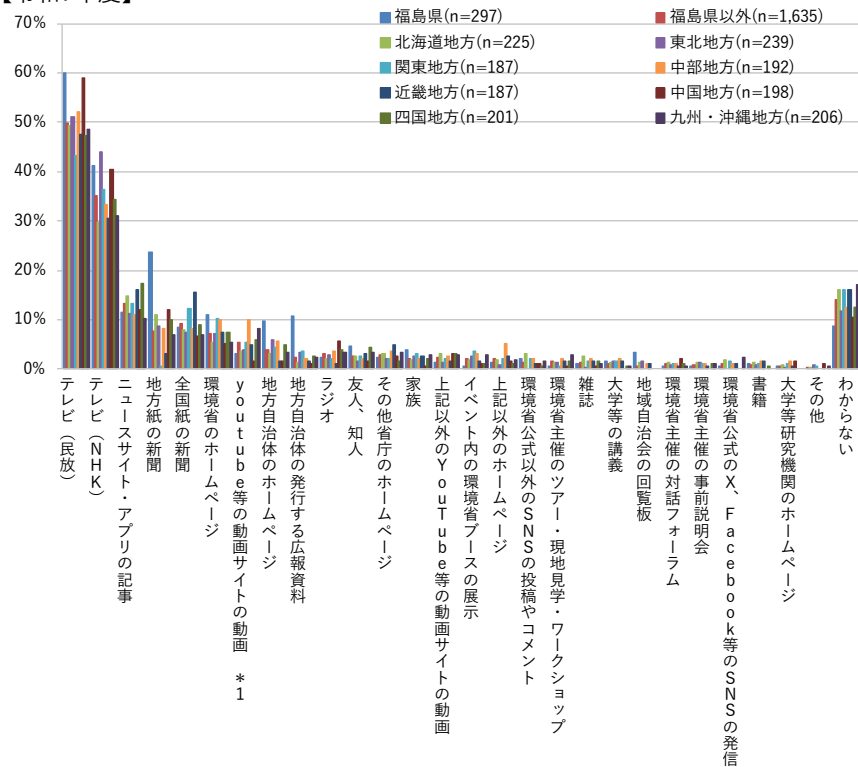
【県外最終処分の方針の認知】



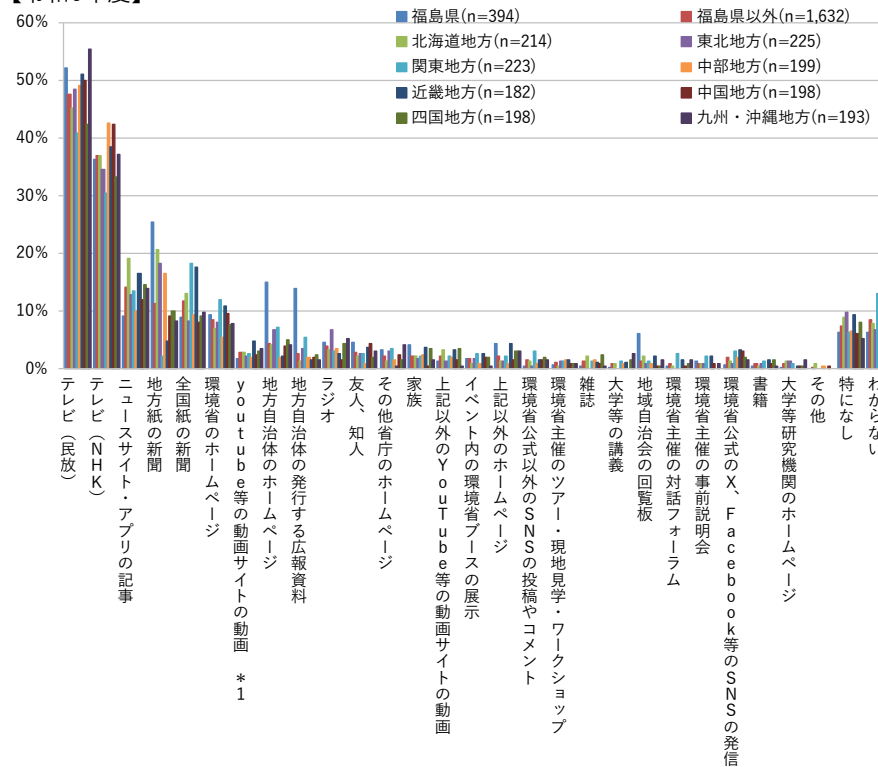
Q2：あなたは、除去土壌等の福島県外での最終処分の方針について、何で情報を得ましたか。（複数回答）

全地域において「テレビ（民放・NHK）」が多い。

【令和7年度】



【令和6年度】



※全体の値を基準に降順並び替え

*1 環境省のyoutubeチャンネル又は環境省と連携したyoutube動画

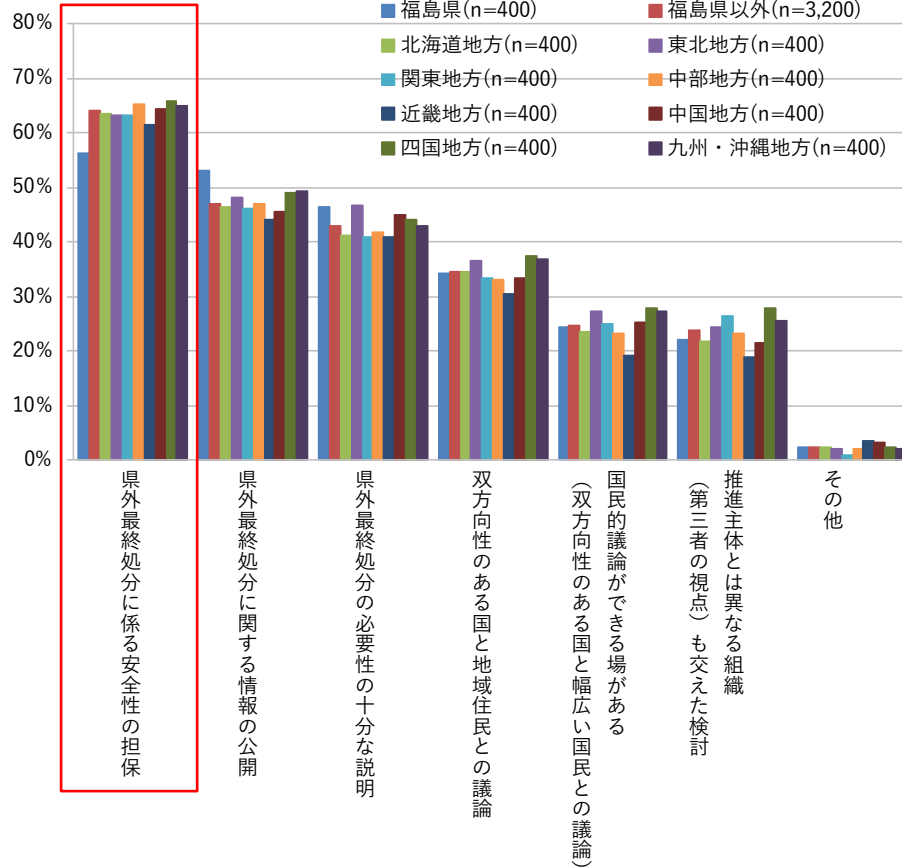
※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

Q3の回答

Q3：あなたは、除去土壌等の県外最終処分を進める上でどのような条件が整っている必要があると思いますか。（複数回答）

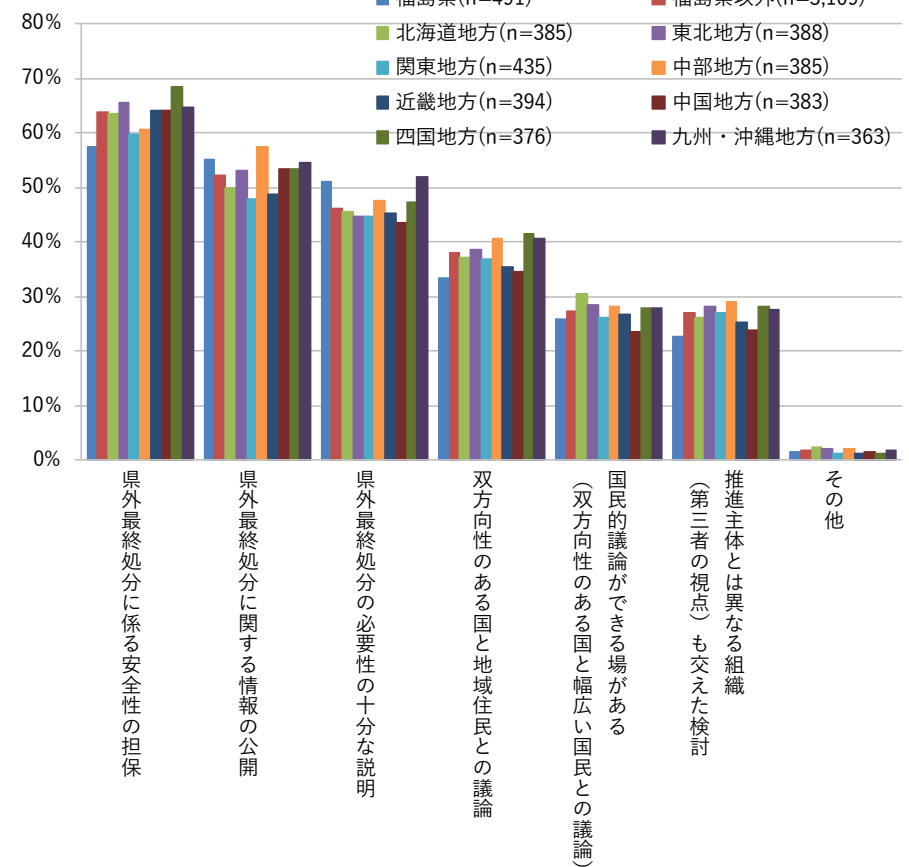
全地域において「県外最終処分に係る安全性の担保」が多い。

【令和7年度】



※全体の値を基準に降順並び替え

【令和6年度】



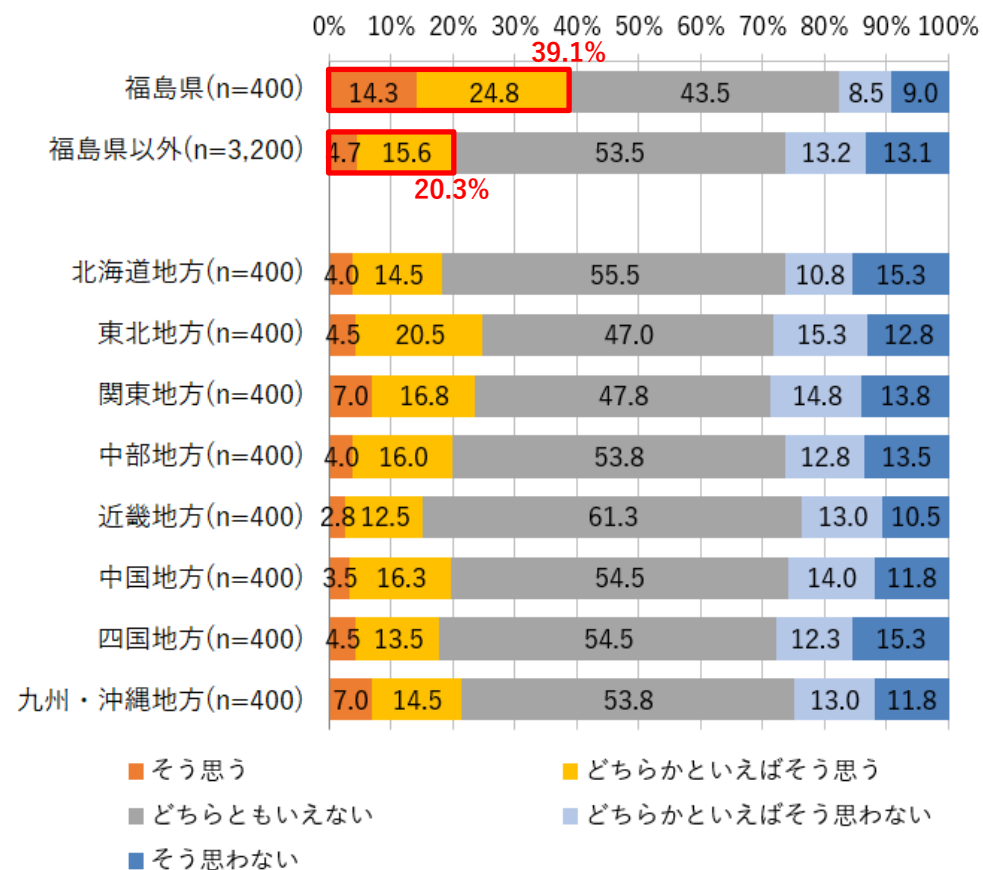
※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

Q4の回答

Q4（新規）：あなたは、除去土壌等の県外最終処分は安全だと思いますか。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、福島県では約39%、福島県以外では約20%となった。

【令和7年度】

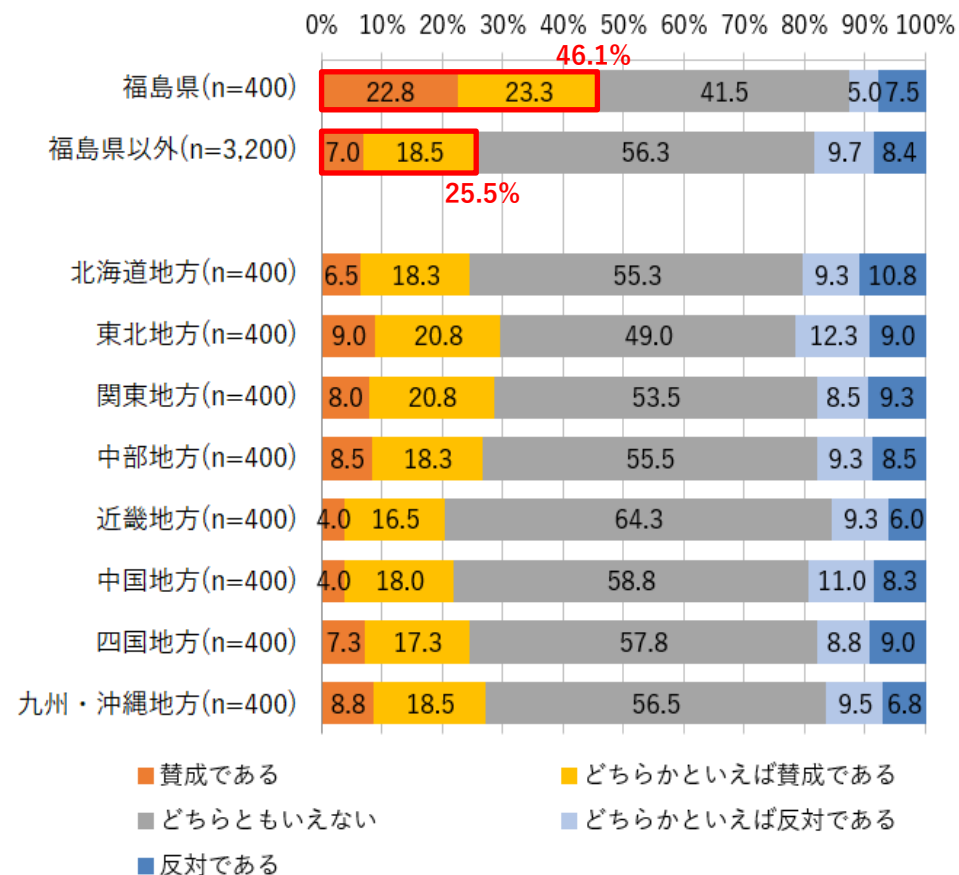


Q5の回答

Q5（新規）：あなたは、除去土壌等の県外最終処分を進めることに賛成ですか。それとも反対ですか。

「賛成である」「どちらかといえば賛成である」を合わせた回答は、福島県では約46%、福島県以外では約25%となった。

【令和7年度】



Q7の回答

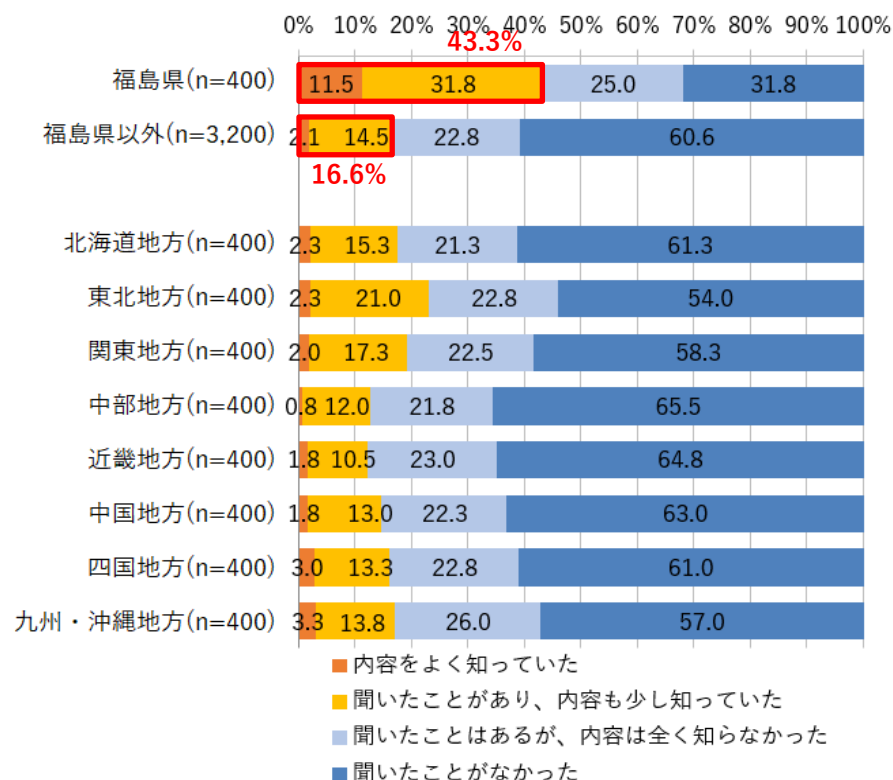
Q7：県外最終処分に向け、除去土壌等の最終処分量を低減するためには、減容・復興再生利用が必要であり、環境省では、除去土壌の復興再生利用の実証事業を行っております。

あなたは、除去土壌の復興再生利用（農地の造成や道路の盛土等）について、その内容をどの程度ご存知でしたか。

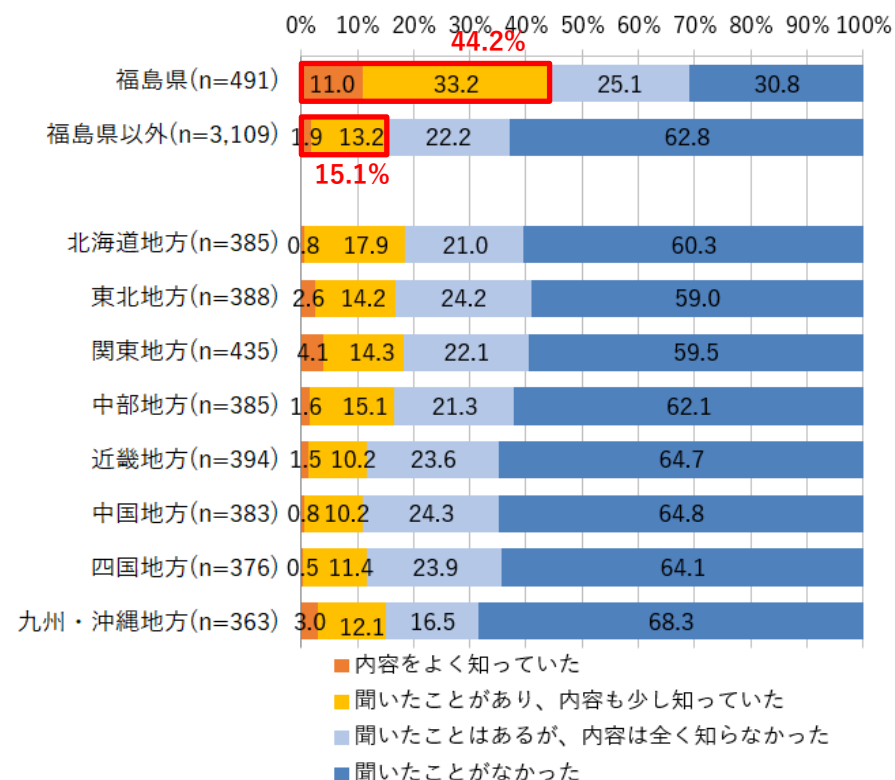
なお、今回や過去実施された本WEBアンケートを通じてのみ知ったという場合は、「4. 聞いたことが無かった」とお答えください。

「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」を合わせた回答は、福島県では約43%、福島県以外では約16%となっており、概ね横ばいで推移している。

【令和7年度】



【令和6年度】

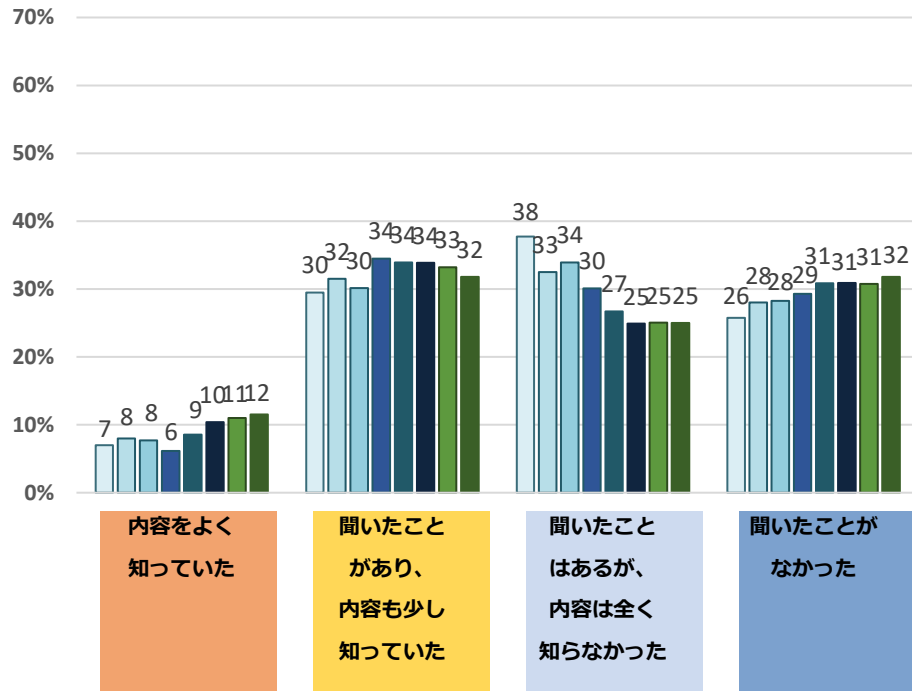


(参考) 福島県内外別の推移 (Q7 復興再生利用の認知)

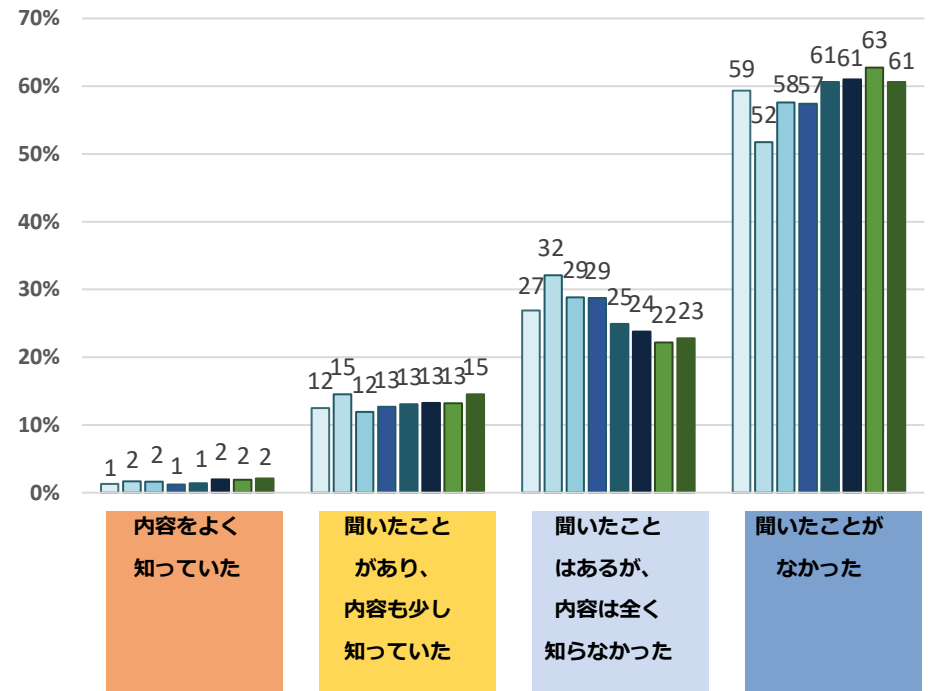
復興再生利用の認知は、県内外で横ばいに推移している。

【復興再生利用の認知】

福島県



福島県以外

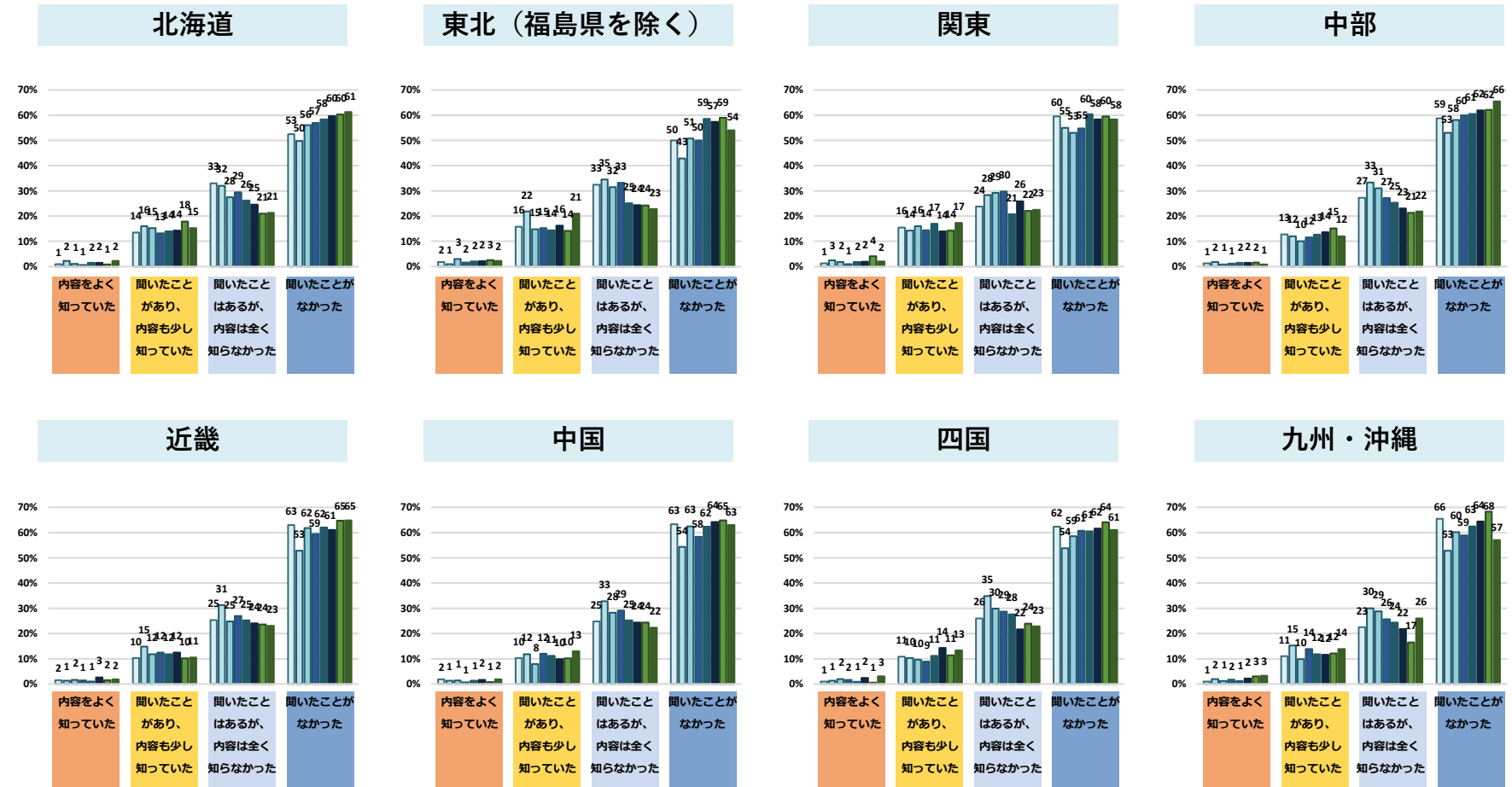


□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

(参考) 県外エリア別の推移 (Q7 復興再生利用の認知)

復興再生利用の認知について、エリアごとに顕著な差は見られないが、北海道及び中部では「聞いたことがなかった」の割合が上昇傾向にある。

【復興再生利用の認知】

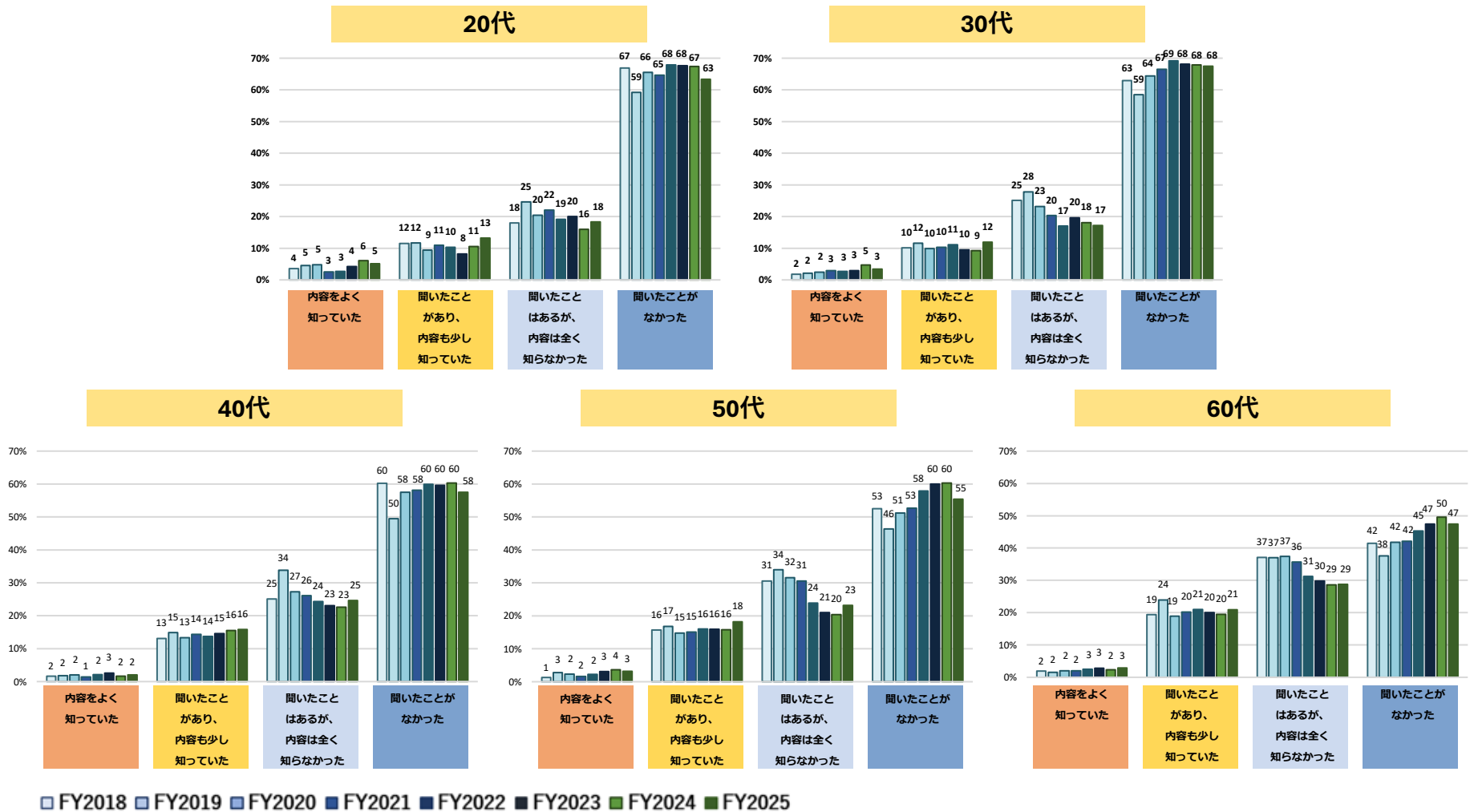


□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 □ FY2021 □ FY2022 □ FY2023 □ FY2024 □ FY2025

(参考) 年代別の推移 (Q7 復興再生利用の認知)

復興再生利用の認知は全体的に「聞いたことがなかった」の割合が高いが、特に20代～30代で高くなっている。

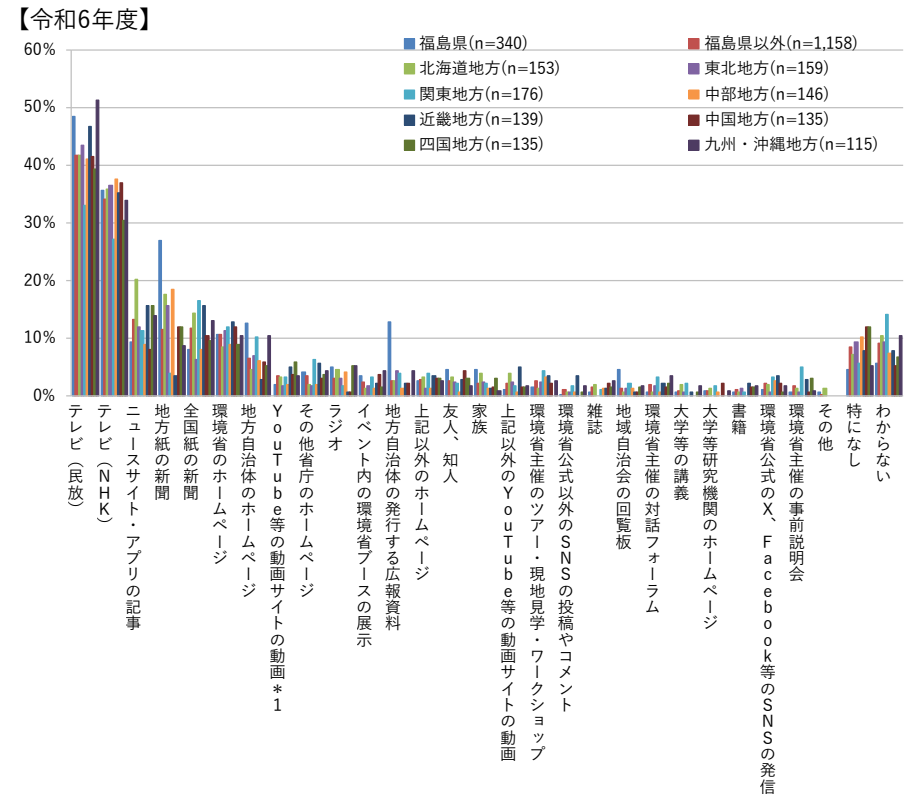
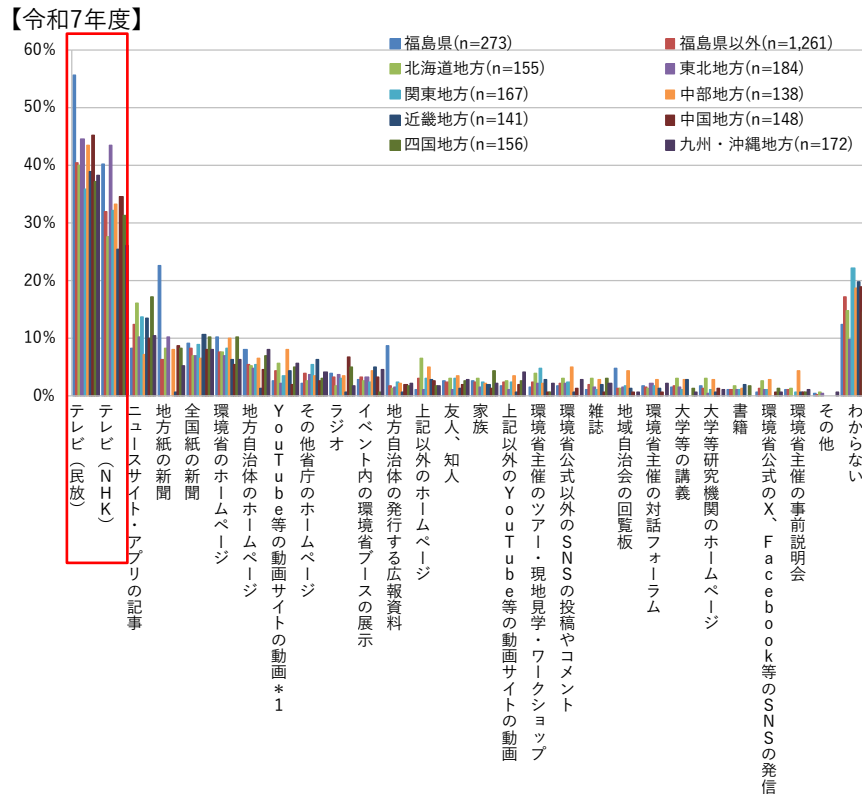
【復興再生利用の認知】



Q8の回答

Q8：あなたは、除去土壌の復興再生利用について、何で情報を得ましたか。（複数回答）

全地域において「テレビ（民放・NHK）」が多い。



※令和7年度は「特になし」の徴取なし

※全体の値を基準に降順並び替え

*1 環境省のyoutubeチャンネル又は環境省と連携したyoutube動画

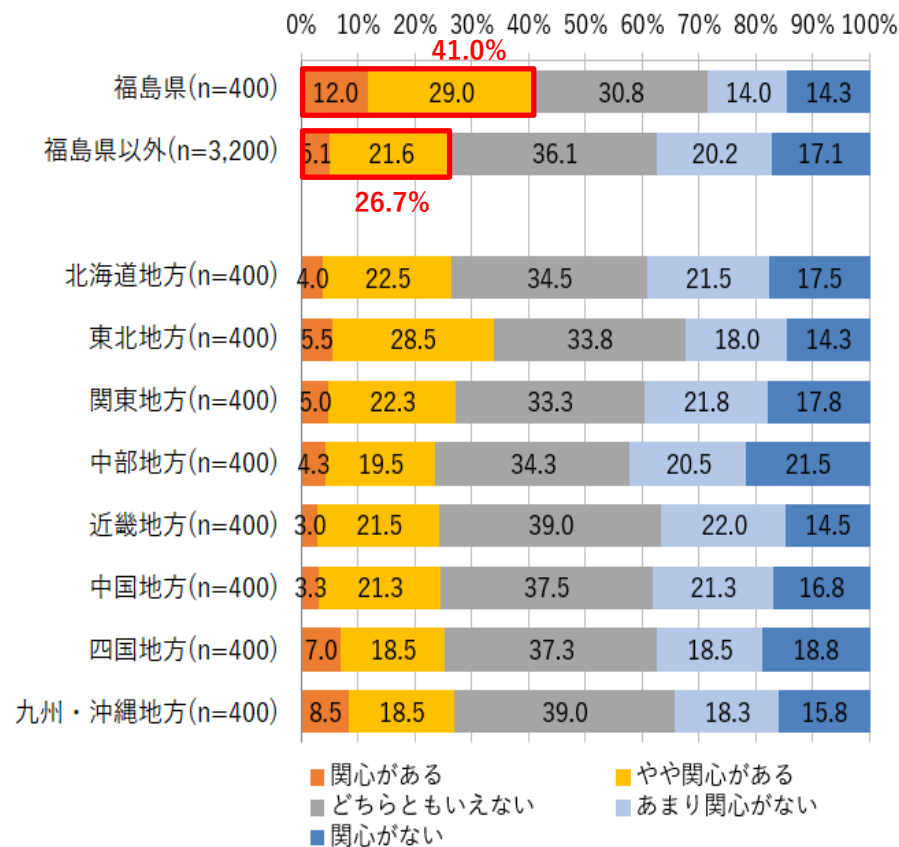
※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

Q9の回答

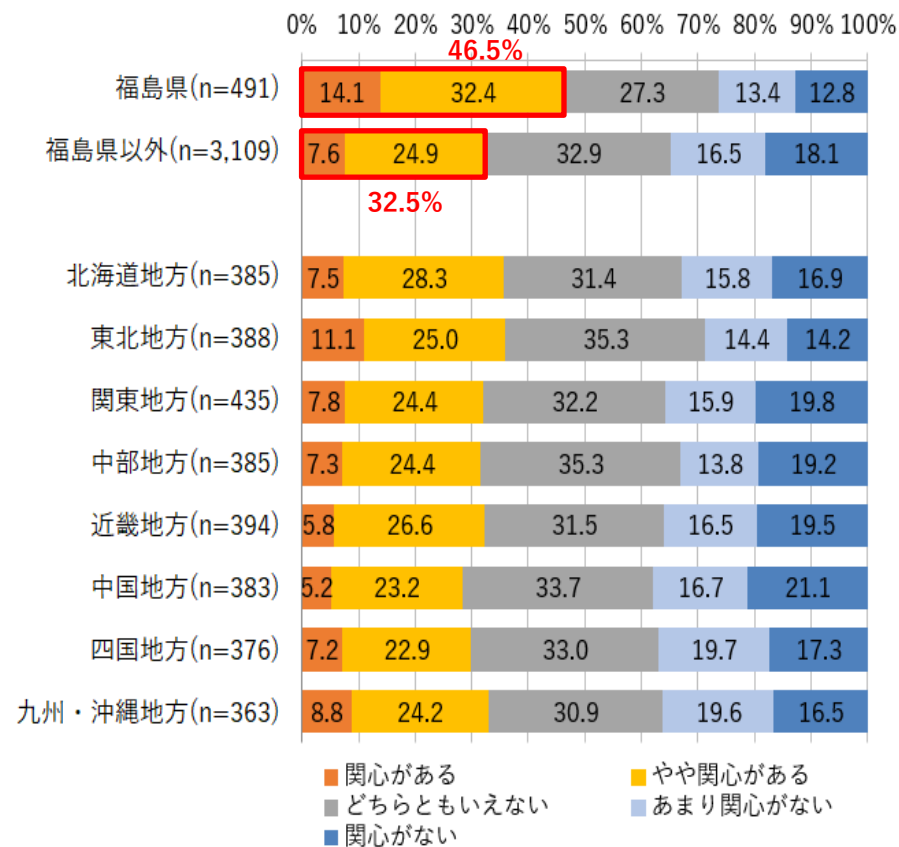
Q9：あなたは、除去土壌の復興再生利用について、どの程度関心をお持ちですか。

「関心がある」「やや関心がある」を合わせた回答は、福島県では約41%、福島県以外では約26%となっており、前年度と比べて、関心が低くなっている傾向にある。

【令和7年度】

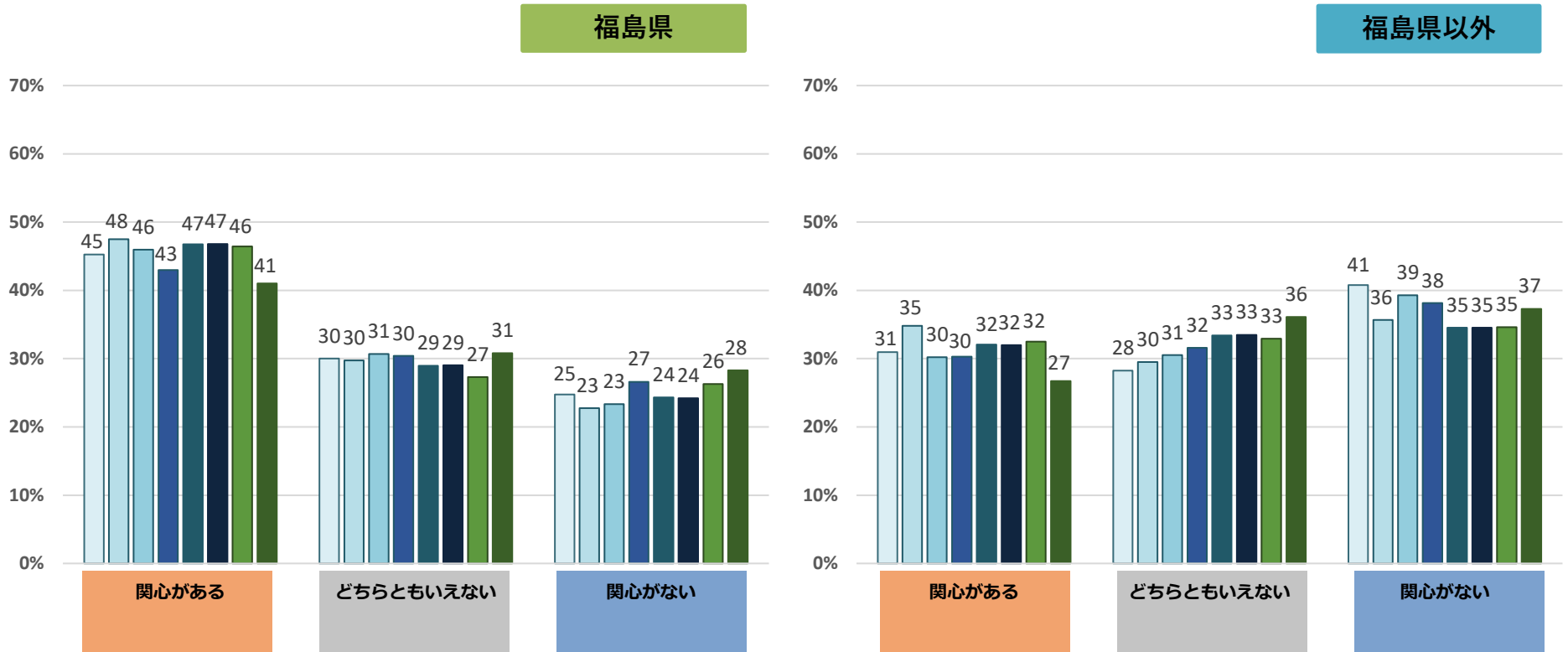


【令和6年度】



(参考) 福島県内外別の推移 (Q9 復興再生利用への関心)

「関心がある」は、概ね横ばいで推移していたものの、令和6年度から7年度にかけて大きく減少している。
また、福島県における「関心がない」及び福島県以外における「どちらともいえない」は増加傾向にある。



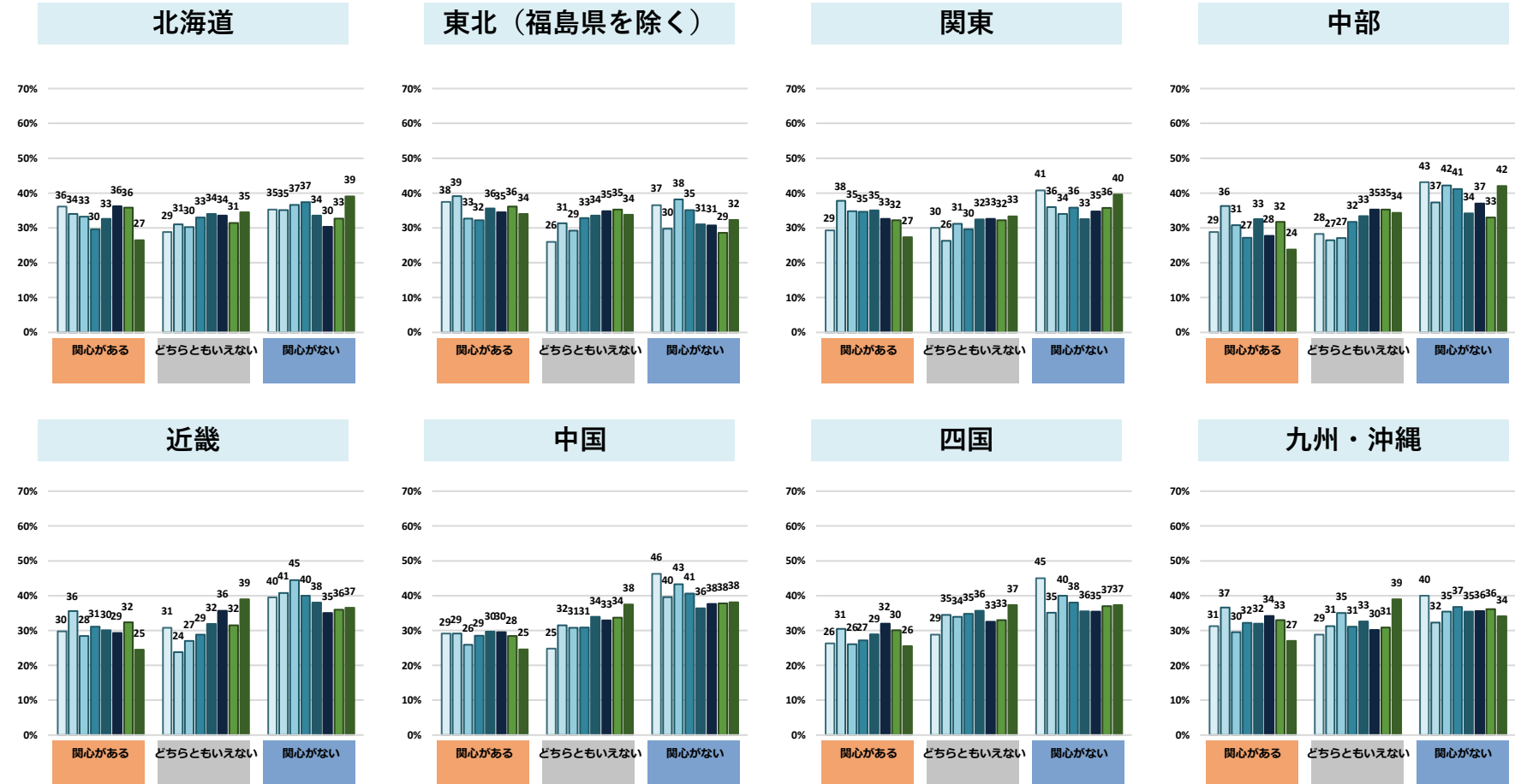
※ 関心がある：「関心がある・やや関心がある」合算値
 ※ 関心がない：「関心がない・あまり関心がない」合算値

□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

(参考) 県外エリア別の推移 (Q9 復興再生利用への関心)

復興再生利用の関心について、エリアごとに顕著な差は見られないが、概ね西日本では「関心がある」に対して「関心がない」の割合が高い傾向にある。

【復興再生利用への関心】



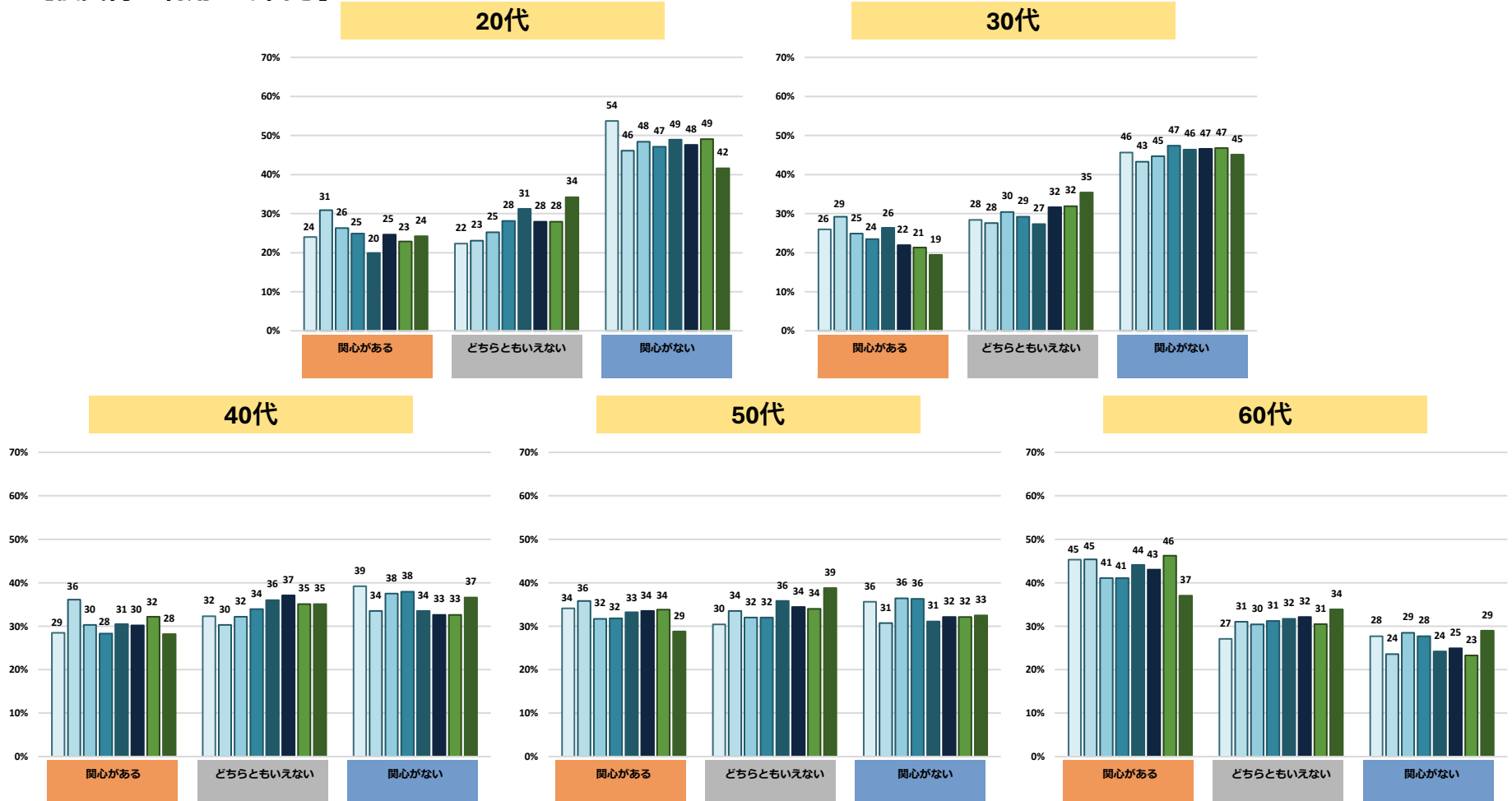
□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

※ 関心がある：「関心がある・やや関心がある」合算値
 ※ 関心がない：「関心がない・あまり関心がない」合算値

(参考) 年代別の推移 (Q9 復興再生利用への関心)

復興再生利用の関心は全体的に「関心がない」の割合が高いが、特に20代～30代で高くなっている。

【復興再生利用への関心】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

※ 関心がある：「関心がある・やや関心がある」合算値

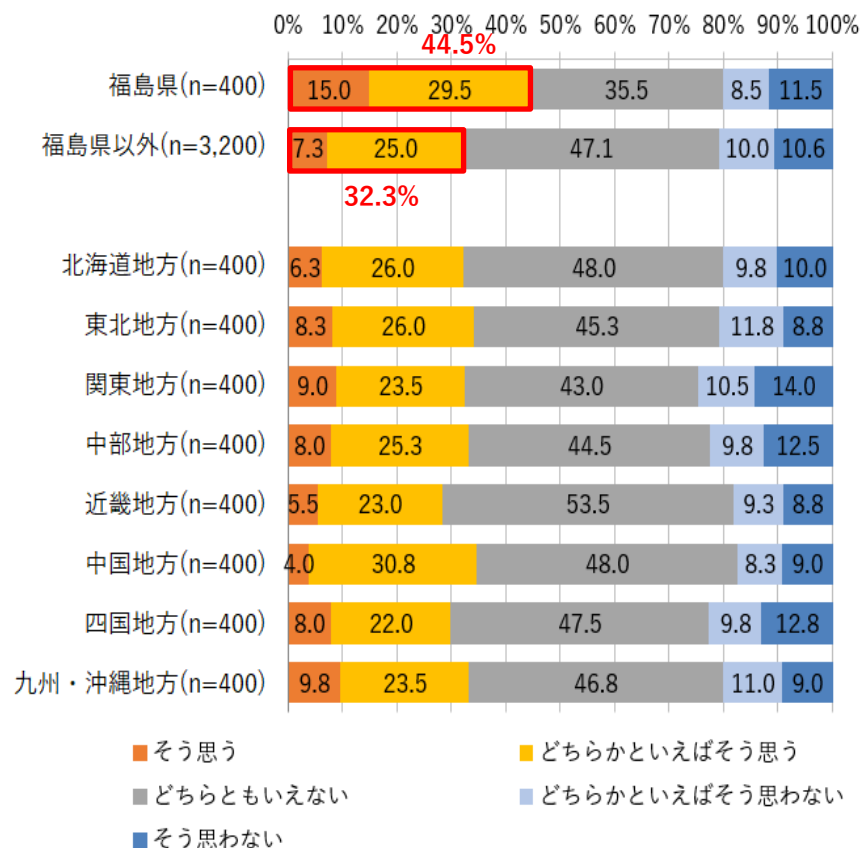
※ 関心がない：「関心がない・あまり関心がない」合算値

Q10の回答

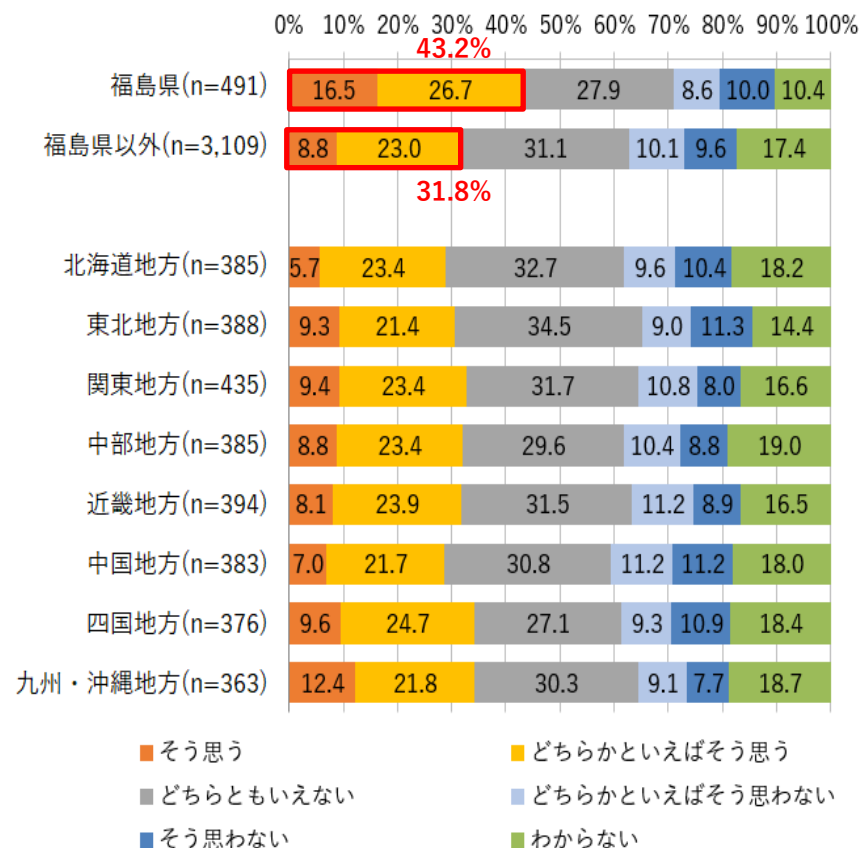
Q10：あなたは、除去土壌を復興再生利用する必要があると思いますか。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、福島県では約44%、福島県以外では約32%となっており、概ね横ばいで推移している。

【令和7年度】



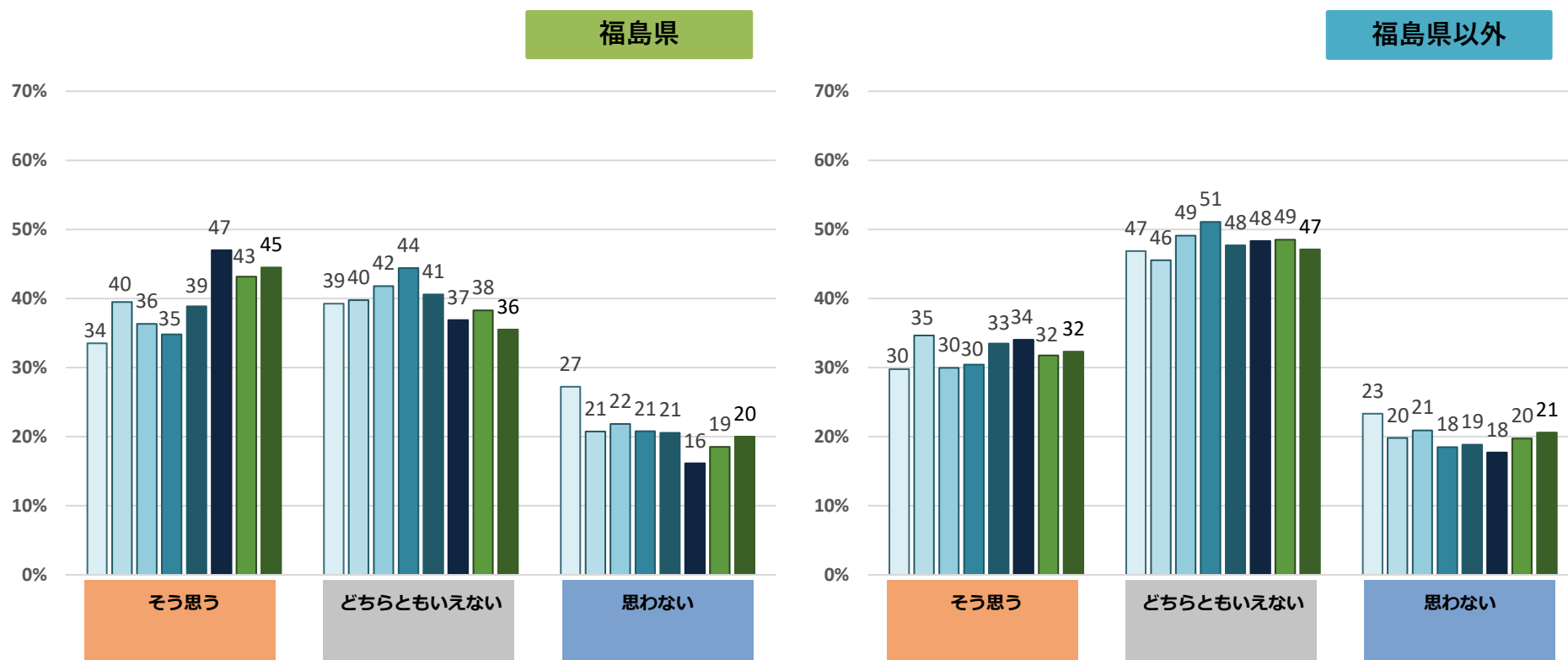
【令和6年度】



(参考) 福島県内外別の推移 (Q10復興再生利用の必要性)

復興再生利用の必要性については、県内外で横ばいに推移している。

【復興再生利用の必要性】



※そう思う：「そう思う・どちらかといえばそう思う」合算値

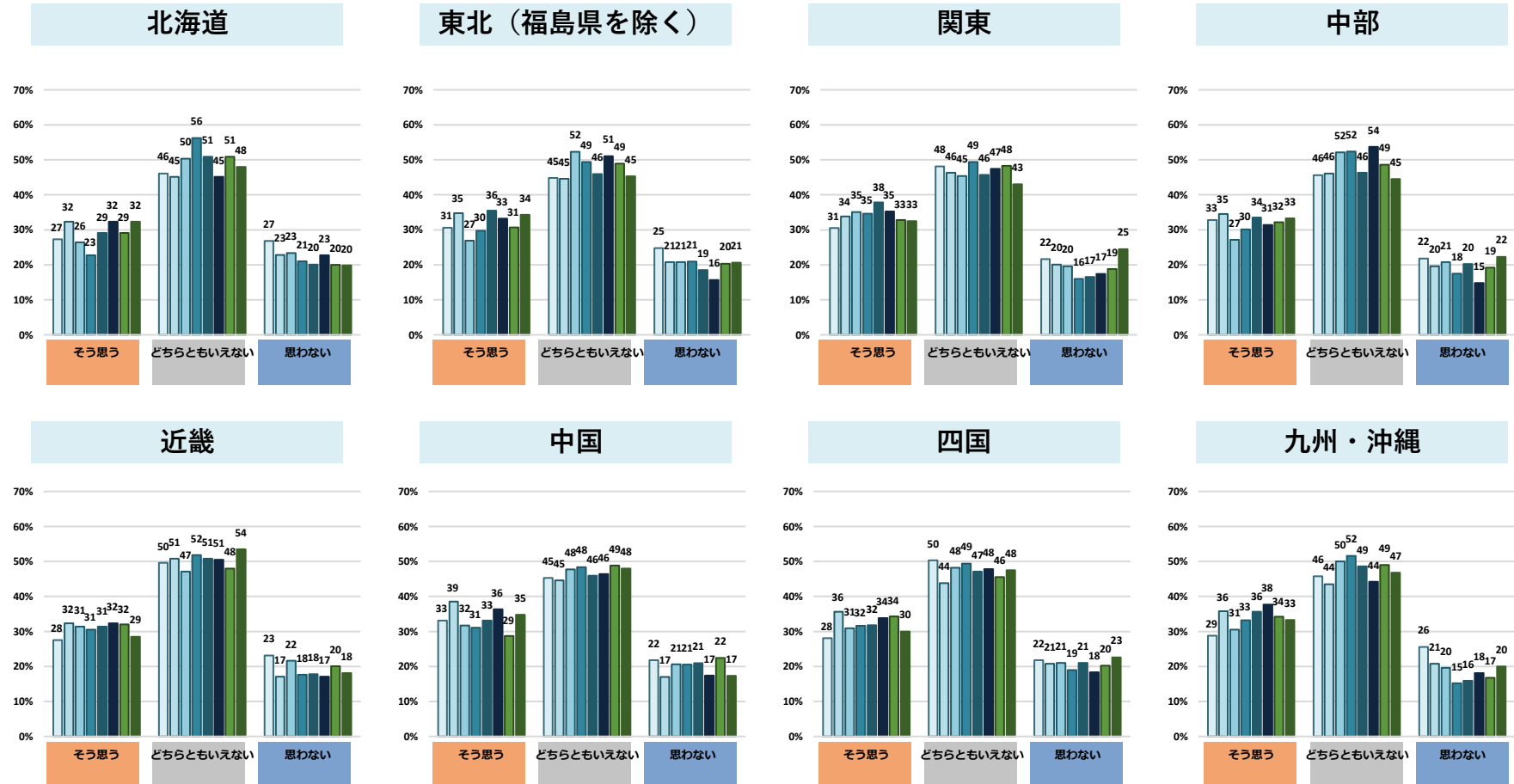
※思わない：「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」合算値

□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

(参考) 県外エリア別の推移 (Q10復興再生利用の必要性)

復興再生利用の必要性について、エリアごとに顕著な差は見られず、概ね横ばいで推移している。

【復興再生利用の必要性】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

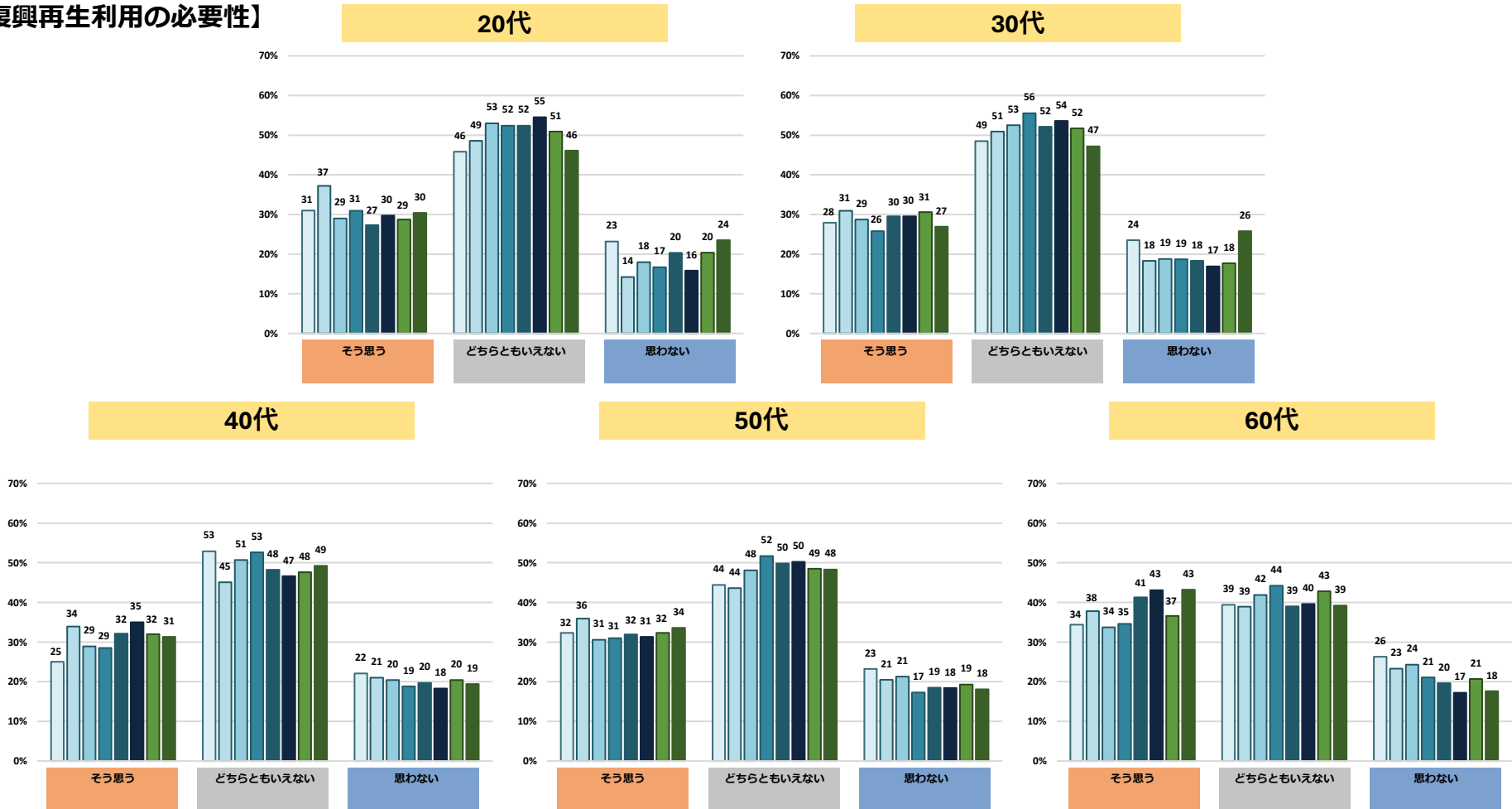
※そう思う：「そう思う・どちらかといえばそう思う」合算値

※思わない：「そう思わない・どちらかといえば思わない」合算値

(参考) 年代別の推移 (Q10復興再生利用の必要性)

復興再生利用の必要性について、60代では「そう思う」の割合が高い。

【復興再生利用の必要性】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

※そう思う：「そう思う・どちらかといえばそう思う」合算値

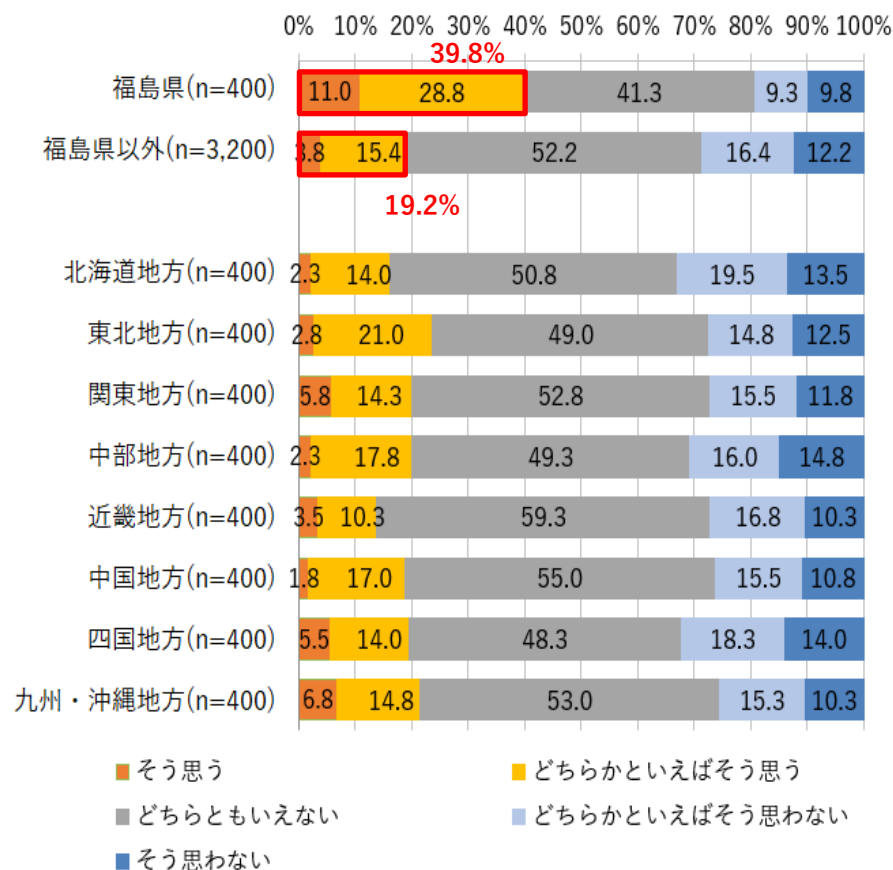
※思わない：「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」合算値

Q11の回答

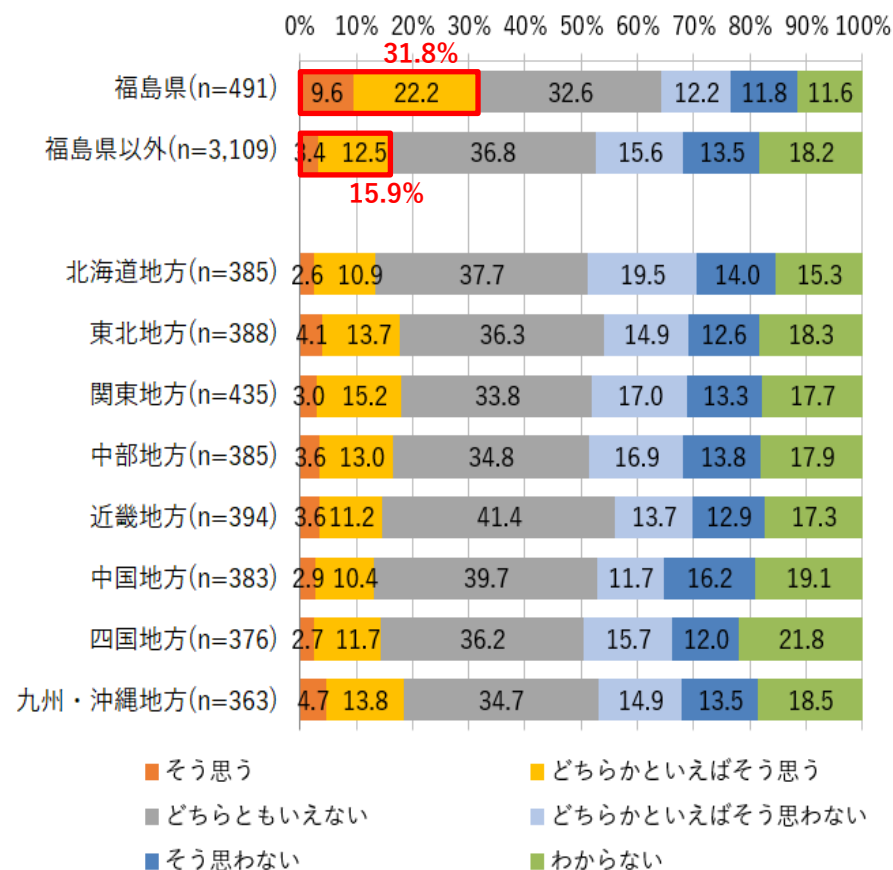
Q11：あなたは、除去土壌の復興再生利用は安全だと思いますか。

福島県、福島県以外ともに「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の割合が増加している。

【令和7年度】



【令和6年度】

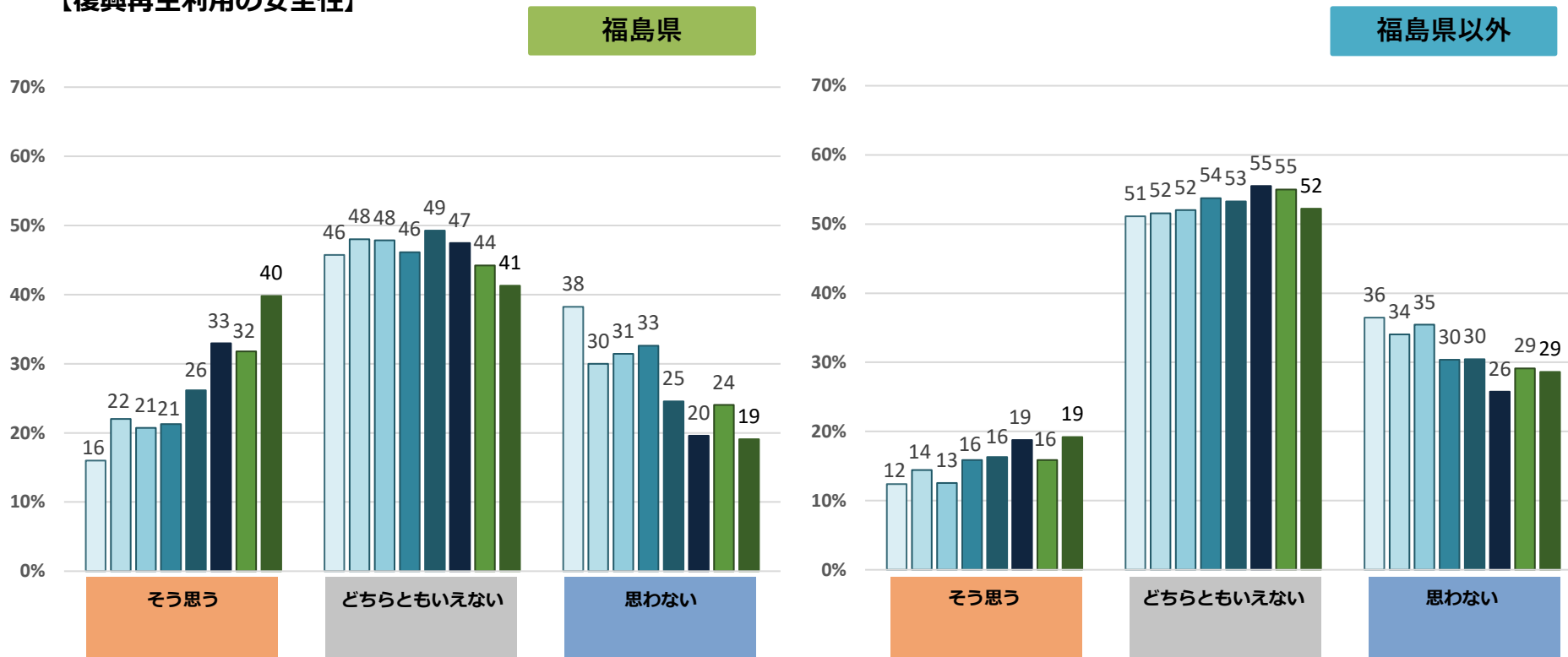


※令和7年度は「わからない」の聴取なし

(参考) 福島県内外別の推移 (Q11復興再生利用の安全性)

復興再生利用の安全性について、福島県内では「思わない」の割合が低下し、「そう思う」の割合が上昇している。県外では、どの回答も概ね横ばいに推移している。

【復興再生利用の安全性】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

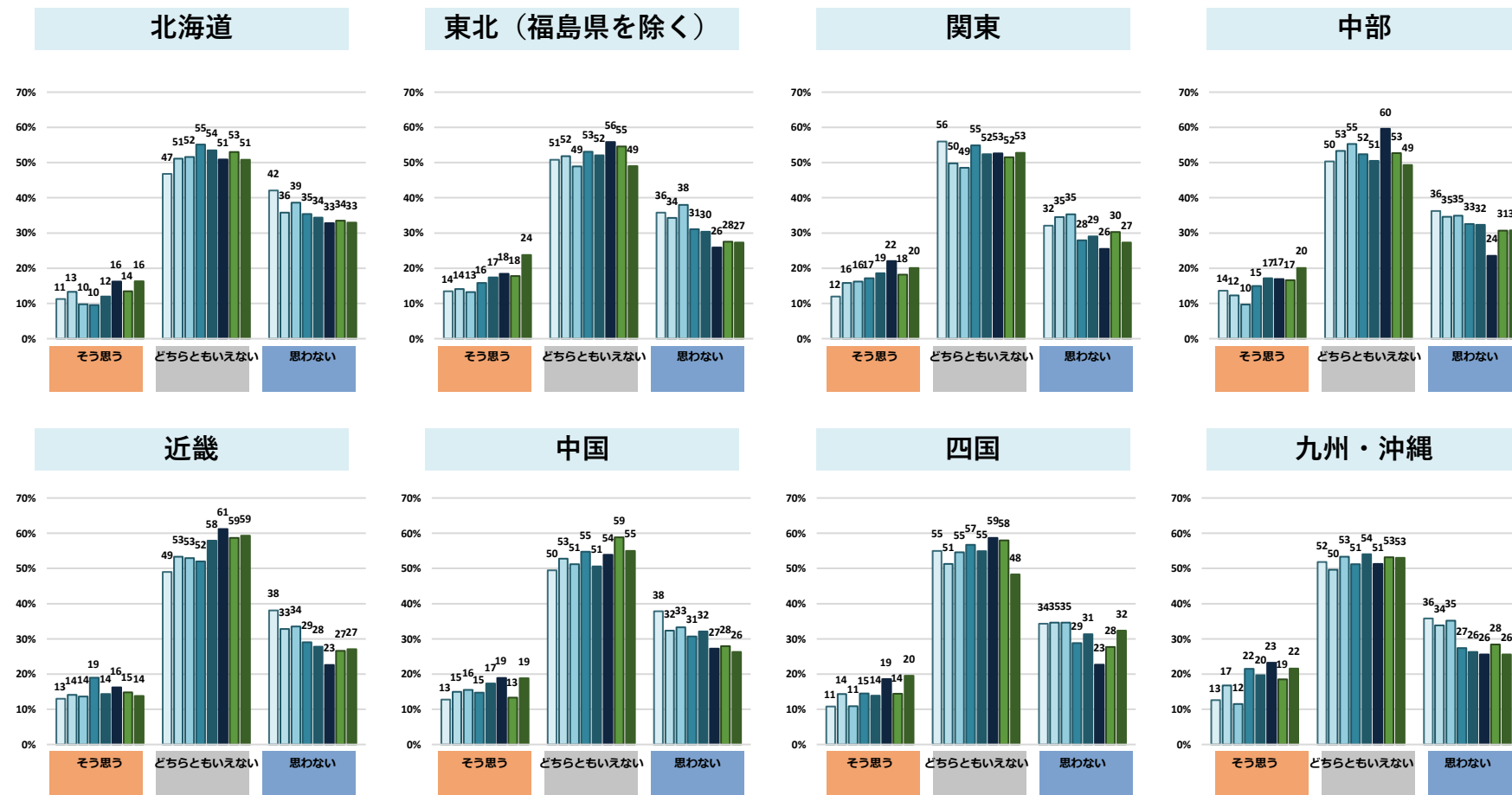
※そう思う：「そう思う・どちらかといえばそう思う」合算値

※思わない：「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」合算値

(参考) 福島県内外別の推移 (Q11復興再生利用の安全性)

復興再生利用の安全性について、エリアごとに顕著な差は見られないが、多くのエリアで「思わない」が減少する傾向が見られる。

【復興再生利用の安全性】



■ FY2018 ■ FY2019 ■ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

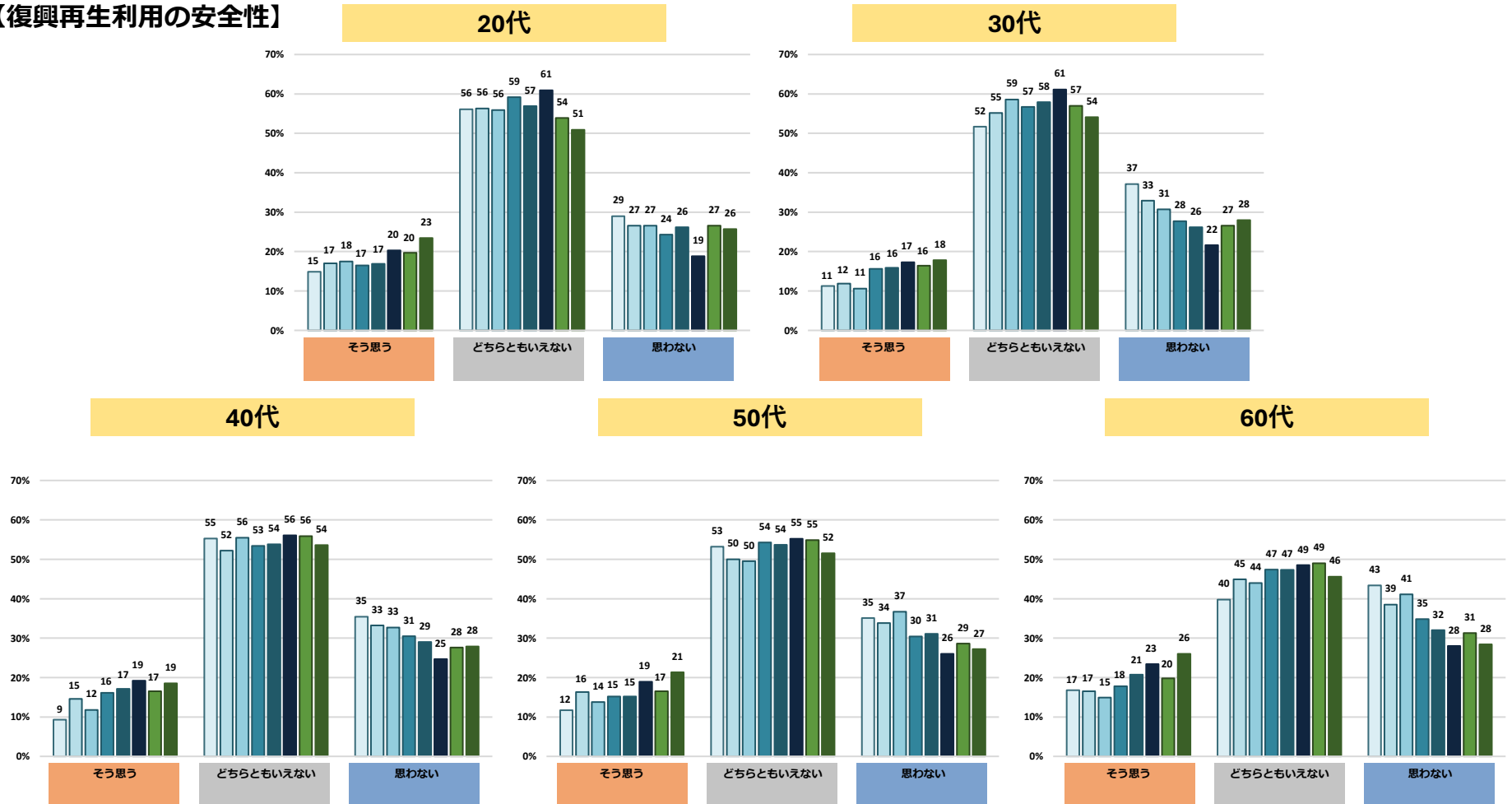
※そう思う：「そう思う・どちらかといえばそう思う」合算値

※思わない：「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」合算値

(参考) 年代別の推移 (Q11復興再生利用の安全性)

復興再生利用の安全性について、60代では「どちらともいえない」の割合が低く、「そう思う」及び「思わない」の割合が他の世代に比べて高い。

【復興再生利用の安全性】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

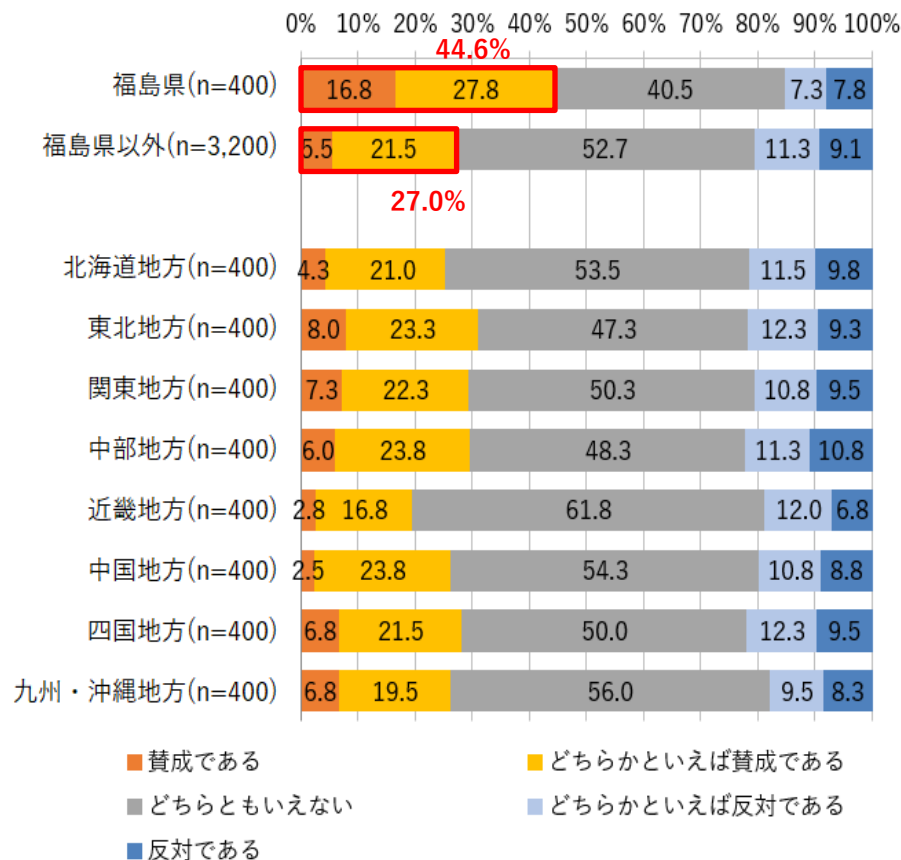
※そう思う：「そう思う・どちらかといえばそう思う」合算値

※思わない：「そう思わない・どちらかといえばそう思わない」合算値

Q12の回答

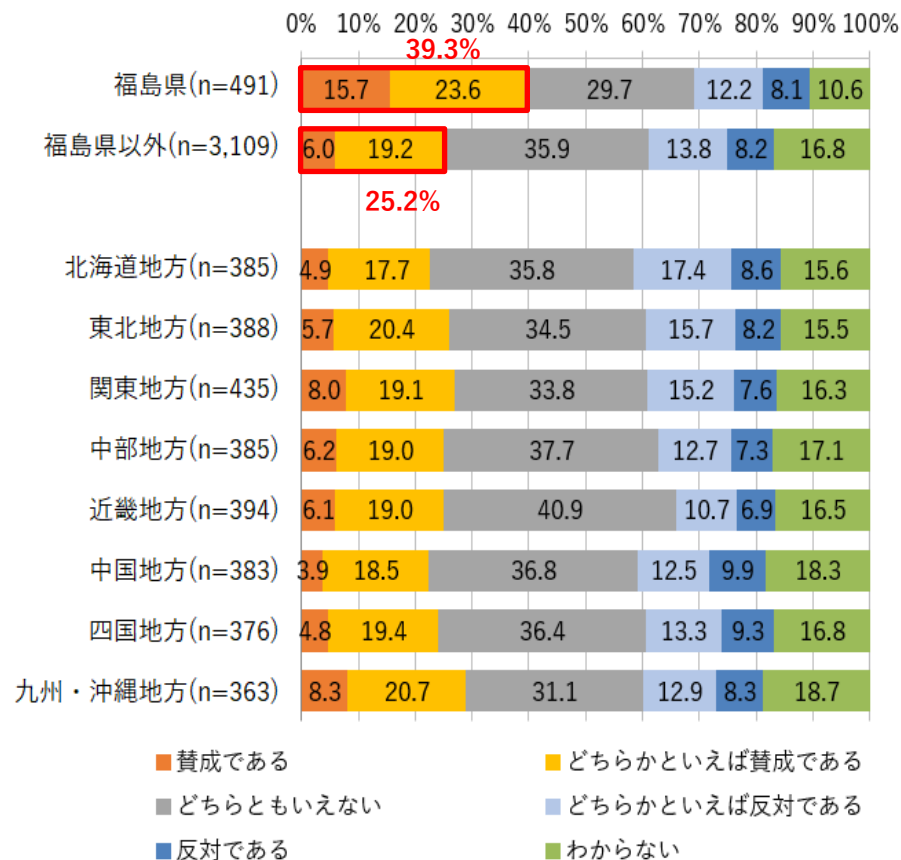
福島県、福島県以外ともに「賛成である」「どちらかといえば賛成である」の割合が増加している。

【令和7年度】



※令和7年度は「わからない」の聴取なし

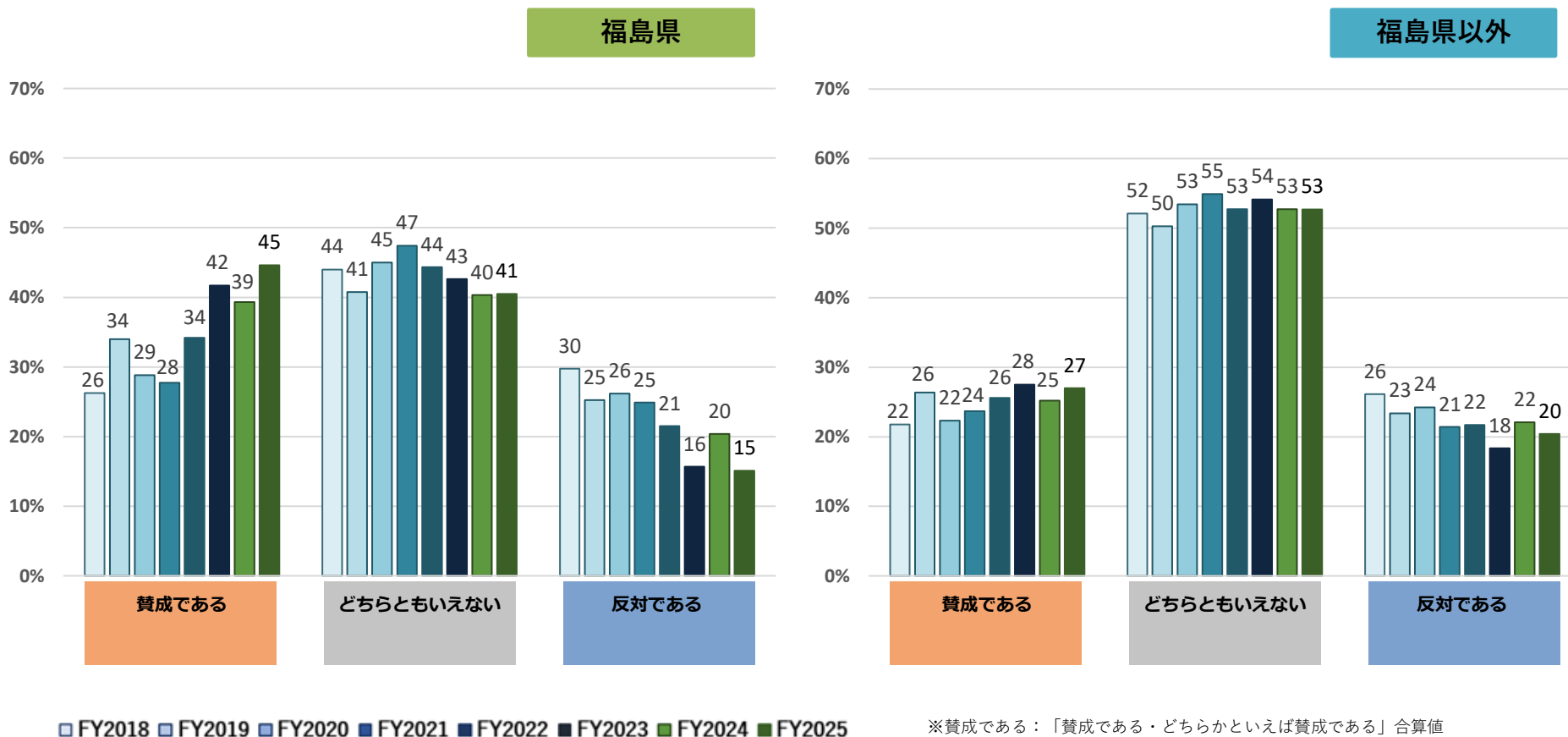
【令和6年度】



(参考) 福島県内外別の推移 (Q12復興再生利用の賛否)

復興再生利用の賛否について、福島県内では「反対である」の割合が低下し、「賛成である」の割合が上昇している。県外では、どの回答も概ね横ばいに推移している。

【復興再生利用の賛否】

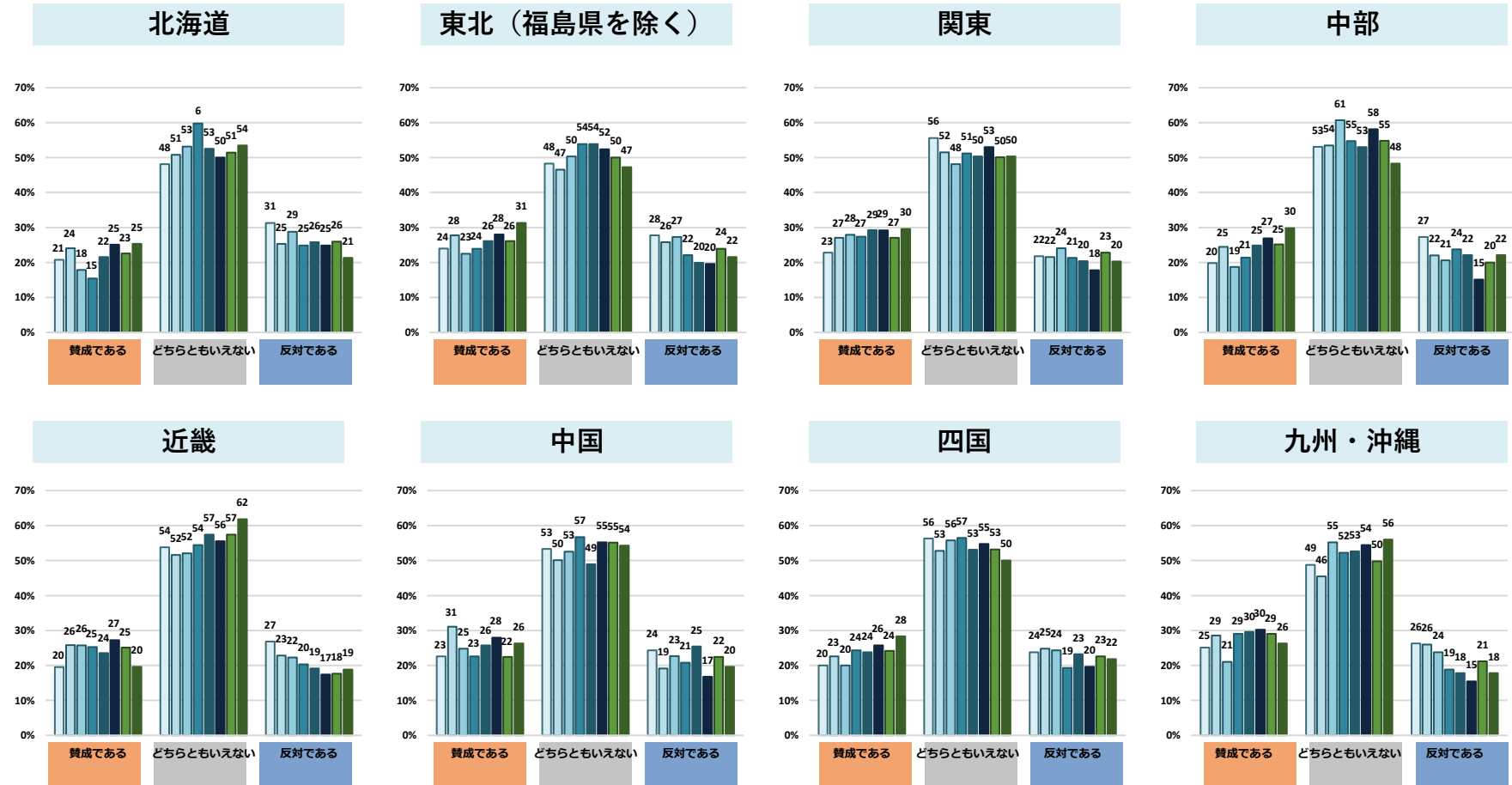


※賛成である：「賛成である・どちらかといえば賛成である」合算値
 ※反対である：「反対である・どちらかといえば反対である」合算値

(参考) 県外エリア別の推移 (Q12復興再生利用の賛否)

復興再生利用の賛否について、エリアごとに顕著な差は見られないが、東日本では「賛成である」が他に比べて高い割合になっている。

【復興再生利用の賛否】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

※賛成である：「賛成である・どちらかといえば賛成である」合算値
 ※反対である：「反対である・どちらかといえば反対である」合算値

(参考) 年代別の推移 (Q12復興再生利用の賛否)

復興再生利用の賛否について、60代では「賛成である」の上昇傾向及び「反対である」の減少傾向が強い。

【復興再生利用の賛否】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

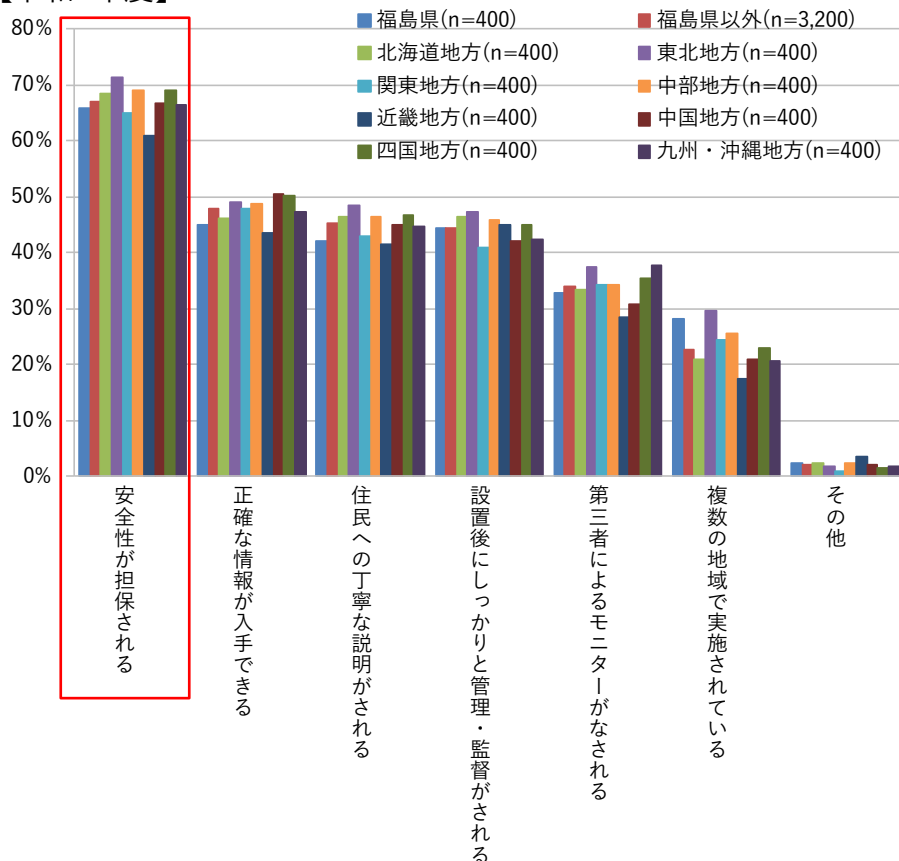
※賛成である：「賛成である・どちらかといえば賛成である」合算値
 ※反対である：「反対である・どちらかといえば反対である」合算値

Q13の回答

Q13：あなたは、除去土壌の復興再生利用を進める上でどのような条件が整っている必要があると思いますか。（複数回答）

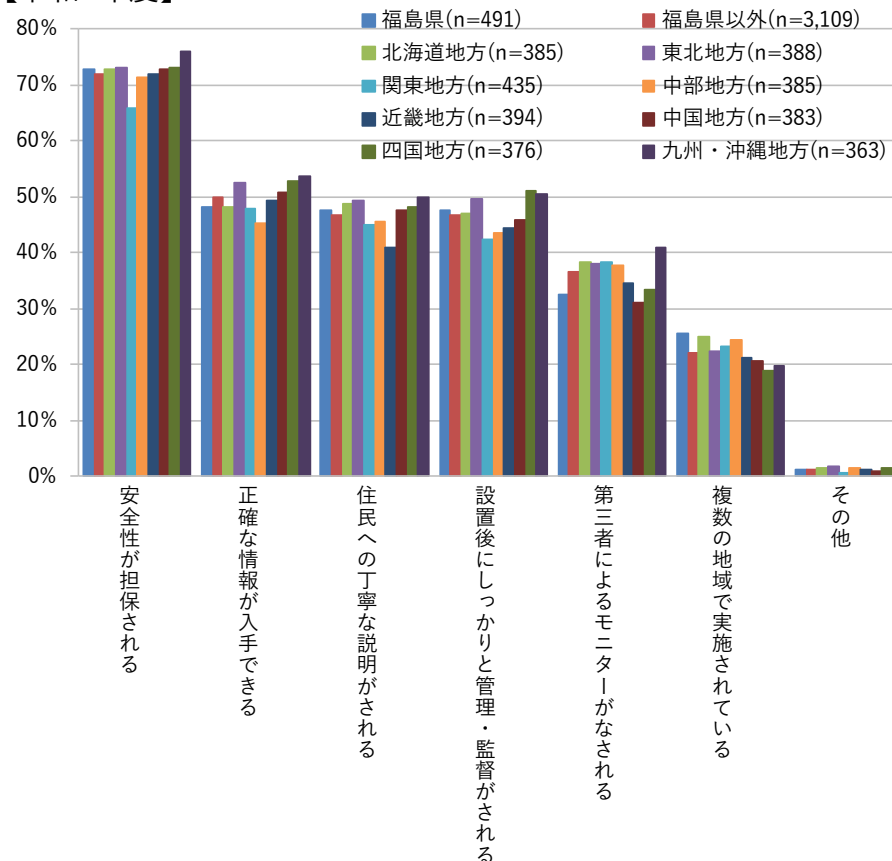
全地域において「安全性が担保される」が多い。

【令和7年度】



※全体の値を基準に降順並び替え

【令和6年度】



※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

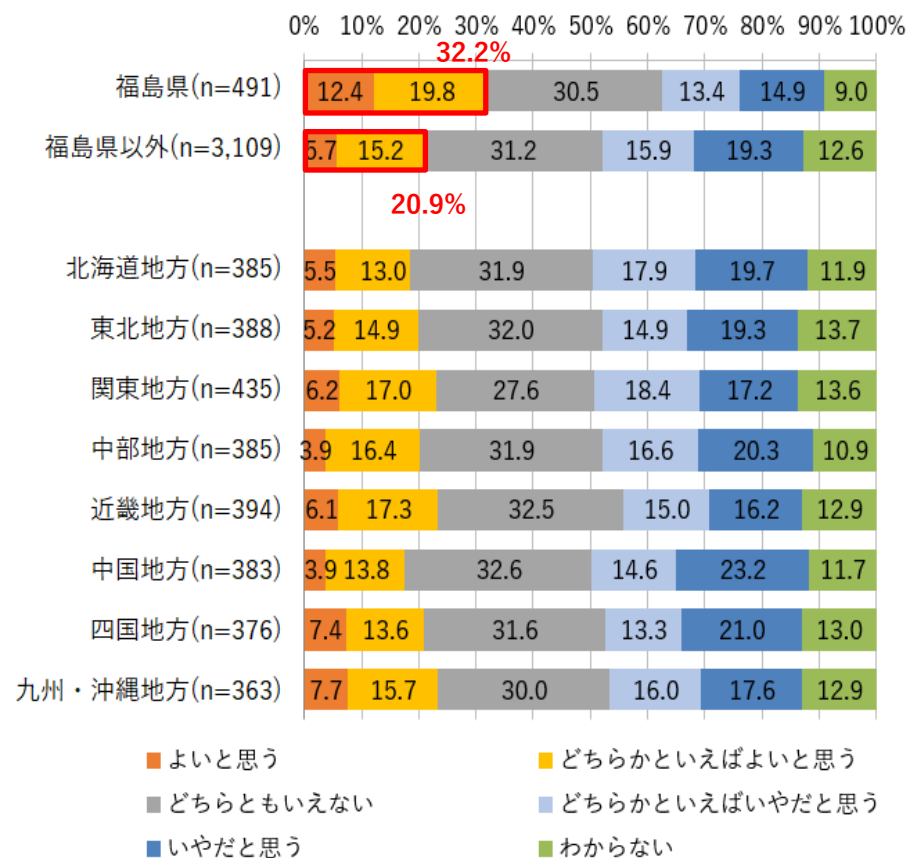
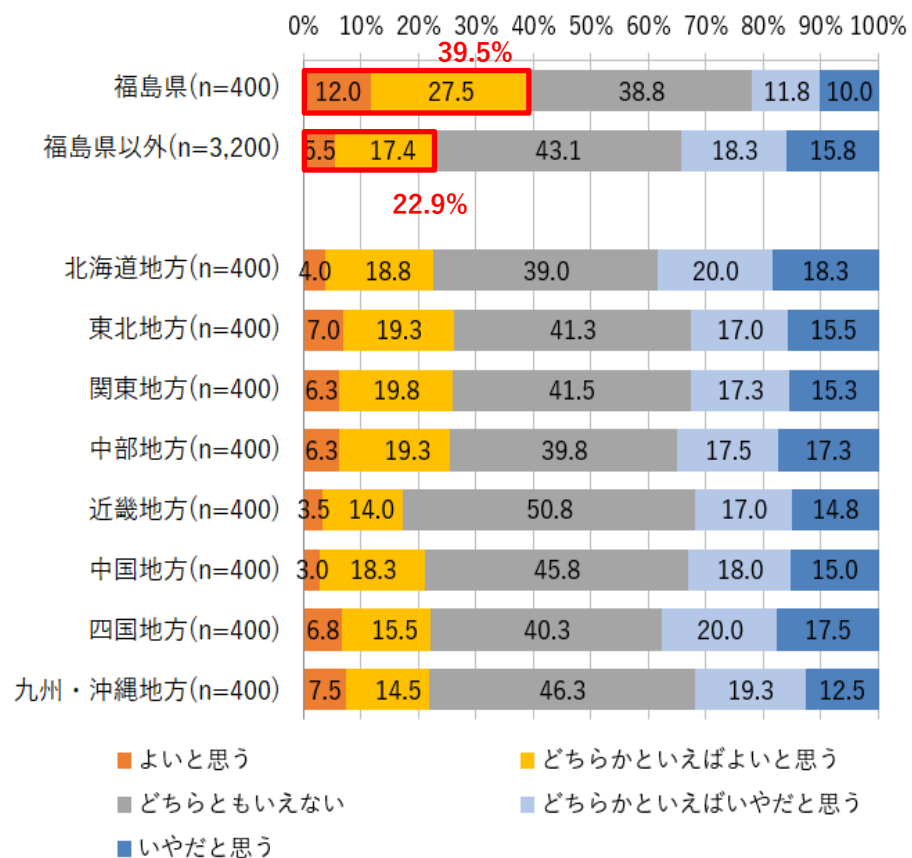
Q14の回答

Q14：あなたは、自身のお住まいの地域で除去土壌の復興再生利用が実施されても良いと思いますか。

福島県、福島県以外ともに「よいと思う」「どちらかといえばよいと思う」の割合が増加している。

【令和7年度】

【令和6年度】

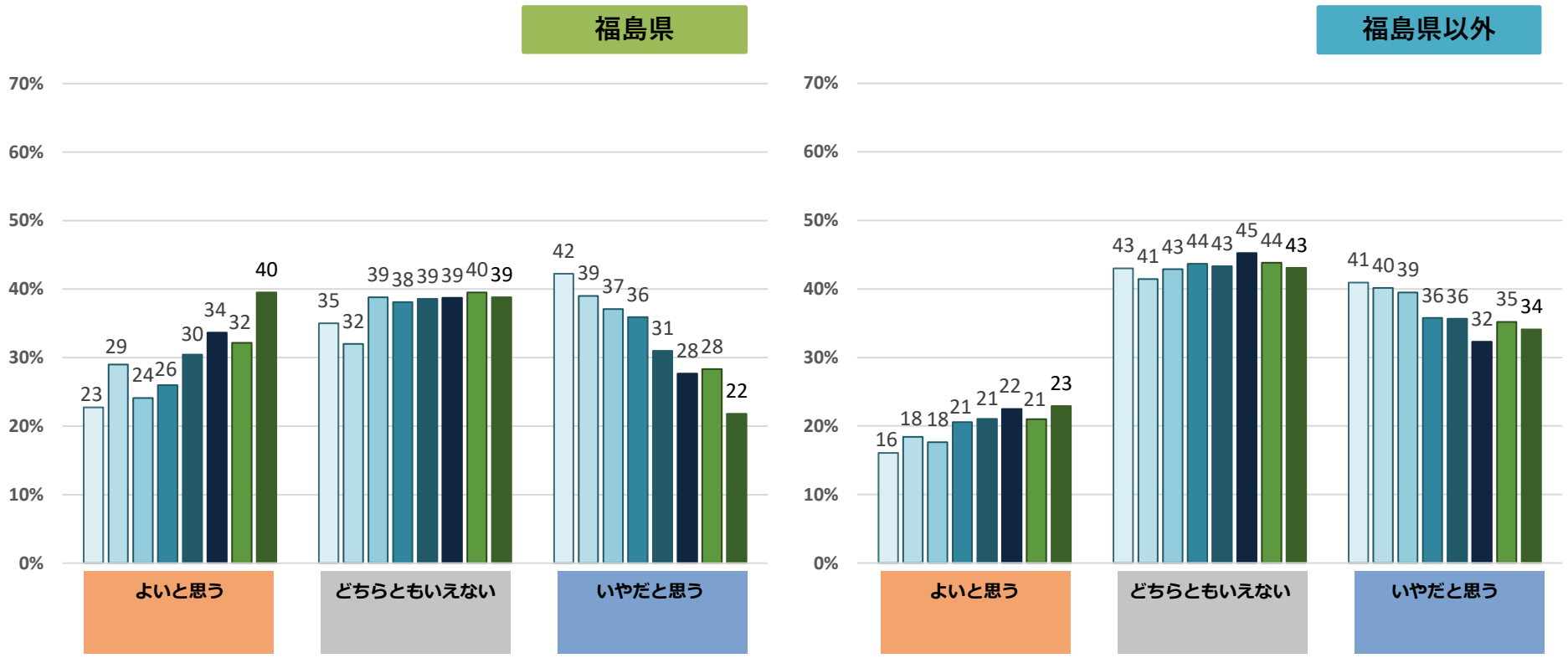


※令和7年度は「わからない」の聴取なし

(参考) 福島県内外別の推移 (Q14自らの居住地内での復興再生利用の賛否)

福島県内では「いやだと思う」の割合が低下し、「よいと思う」の割合が上昇している。県外でも、緩やかであるが、「いやだと思う」の割合が低下し、「よいと思う」の割合が上昇する傾向が見られる。

【自らの居住地内での復興再生利用の賛否】



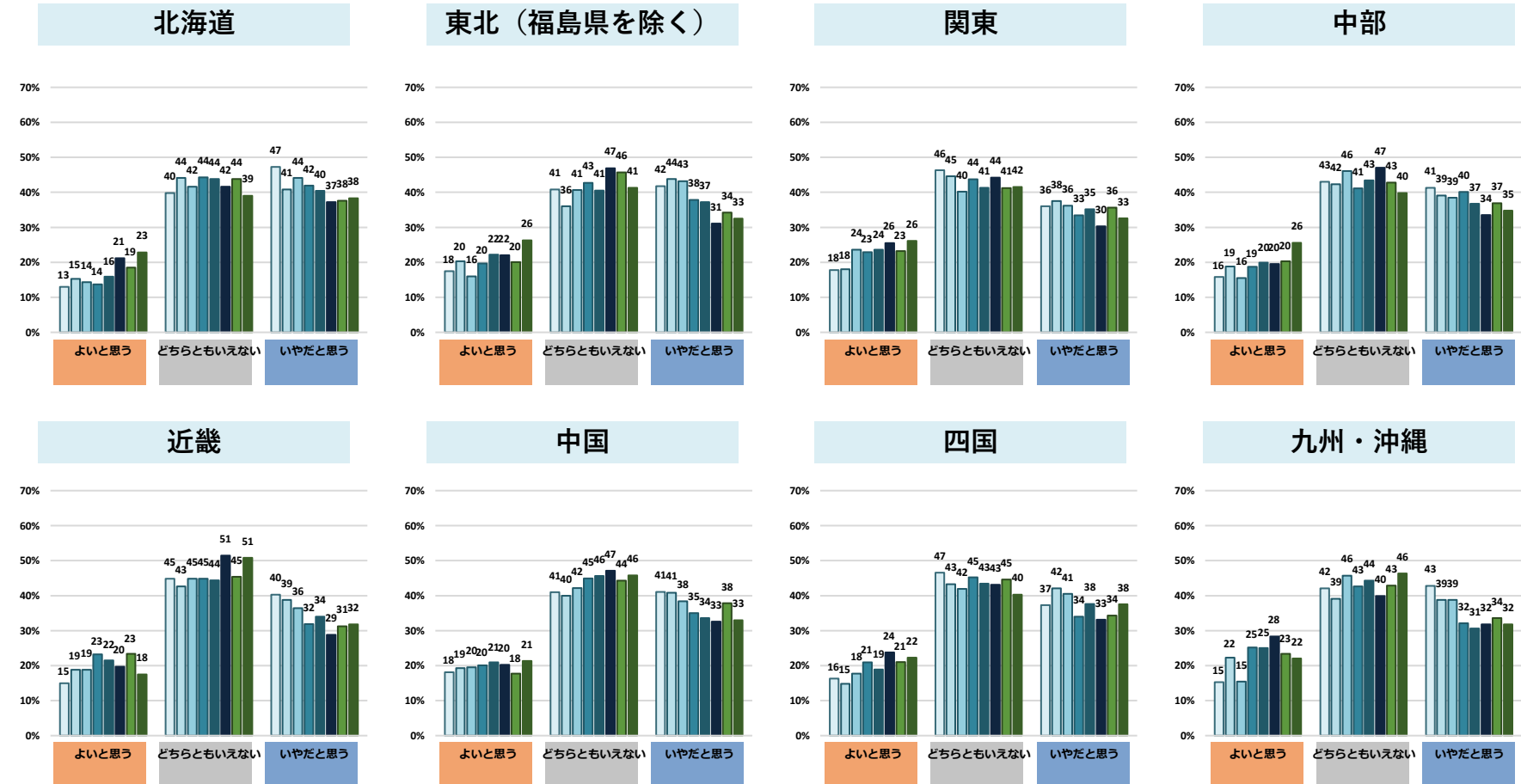
□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

※よいと思う：「よいと思う・どちらかといえばよいと思う」合算値
 ※いやだと思う：「いやだと思う・どちらかといえばいやだと思う」合算値

(参考) 県外エリア別の推移 (Q14自らの居住地域内での復興再生利用の賛否)

復興再生利用の賛否について、エリアごとに顕著な差は見られないが、北海道では「いやだと思う」が他に比べて高い割合になっている。

【自らの居住地域内での復興再生利用の賛否】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

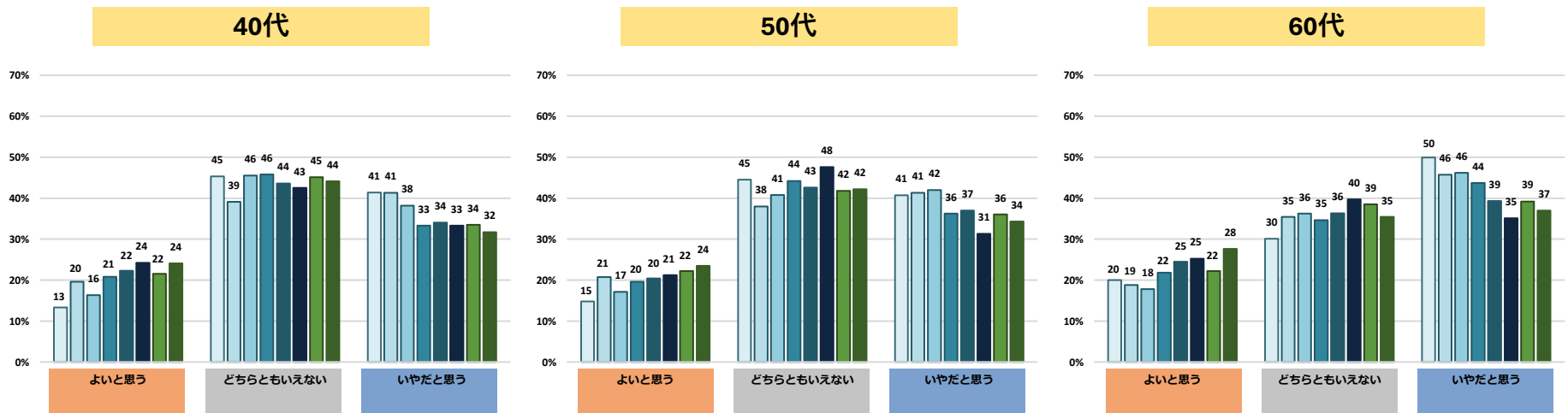
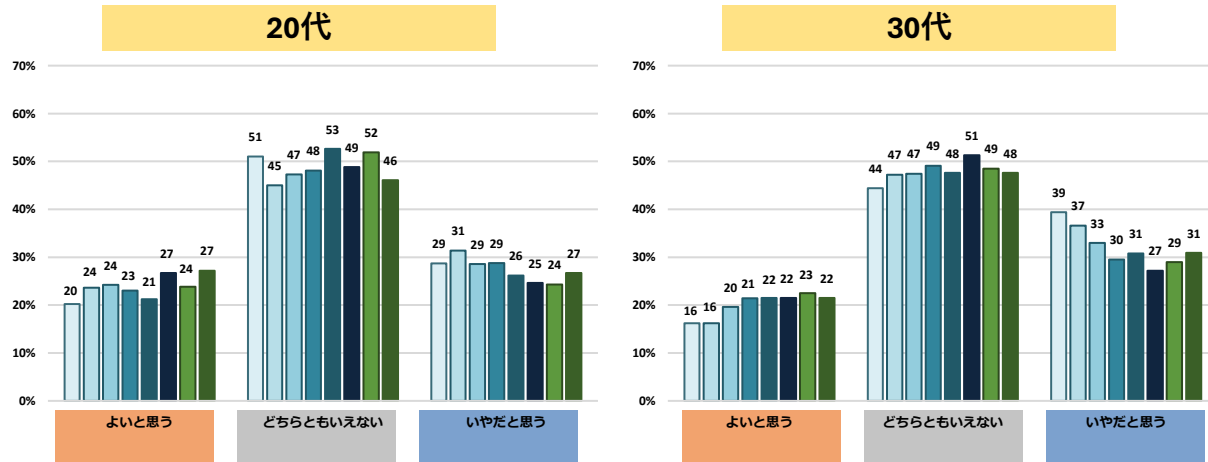
※ よいと思う：「よいと思う・どちらかといえばよいと思う」合算値

※ いやだと思う：「いやだと思う・どちらかといえばいやだと思う」合算値

(参考) 年代別の推移 (Q14自らの居住地内での復興再生利用の賛否)

自らの居住地内での復興再生利用の賛否について、40代～60代では「いやだと思う」の割合が高い。

【自らの居住地内での復興再生利用の賛否】



□ FY2018 □ FY2019 □ FY2020 ■ FY2021 ■ FY2022 ■ FY2023 ■ FY2024 ■ FY2025

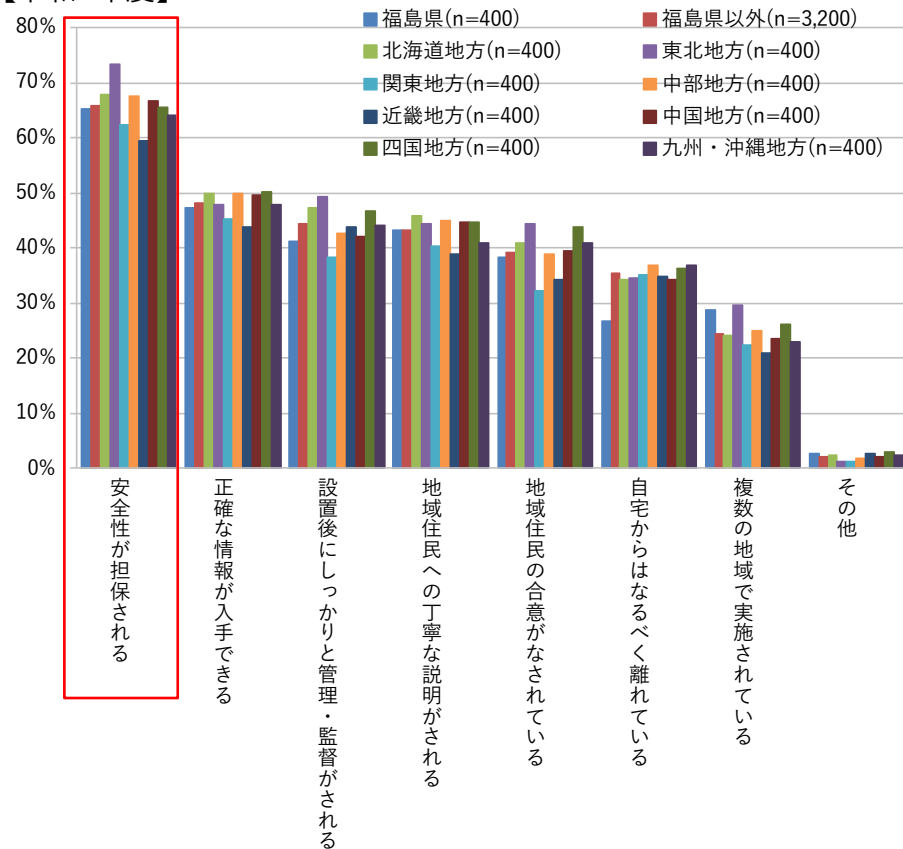
※よいと思う：「よいと思う・どちらかといえばよいと思う」合算値
 ※いやだと思う：「いやだと思う・どちらかといえばいやだと思う」合算値

Q15の回答

Q15：あなたは、自身のお住いの地域で除去土壌の復興再生利用が実施される上でどのような条件が整っている必要があると思いますか。（複数回答）

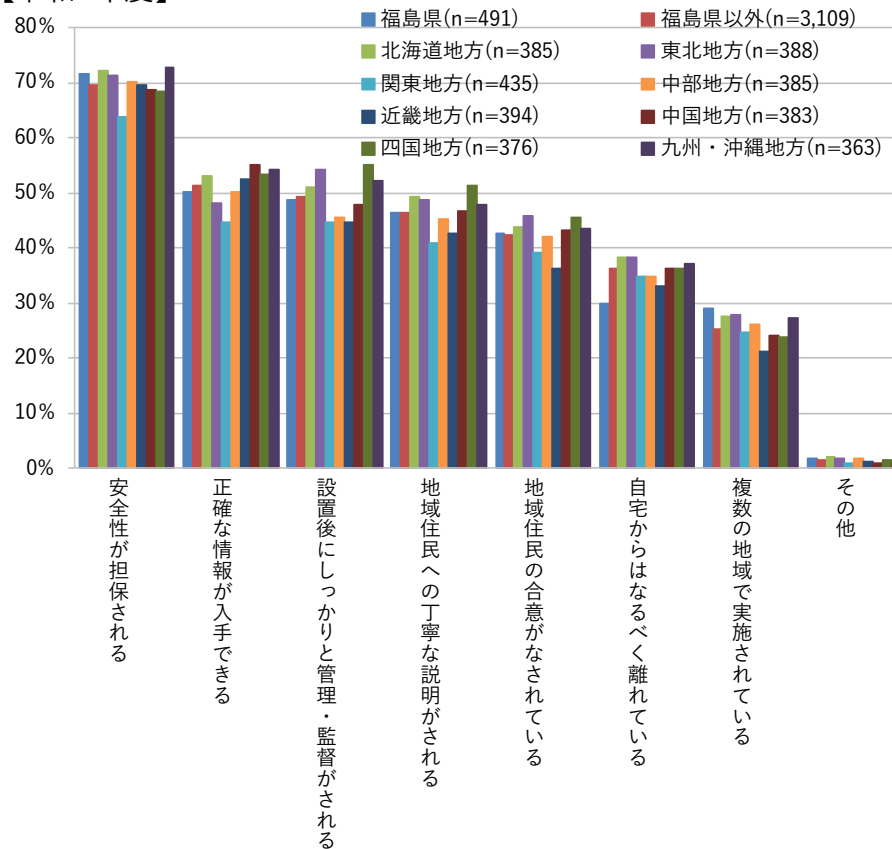
全地域において「安全性が担保される」が多い。

【令和7年度】



全体の値を基準に降順並び替え

【令和6年度】



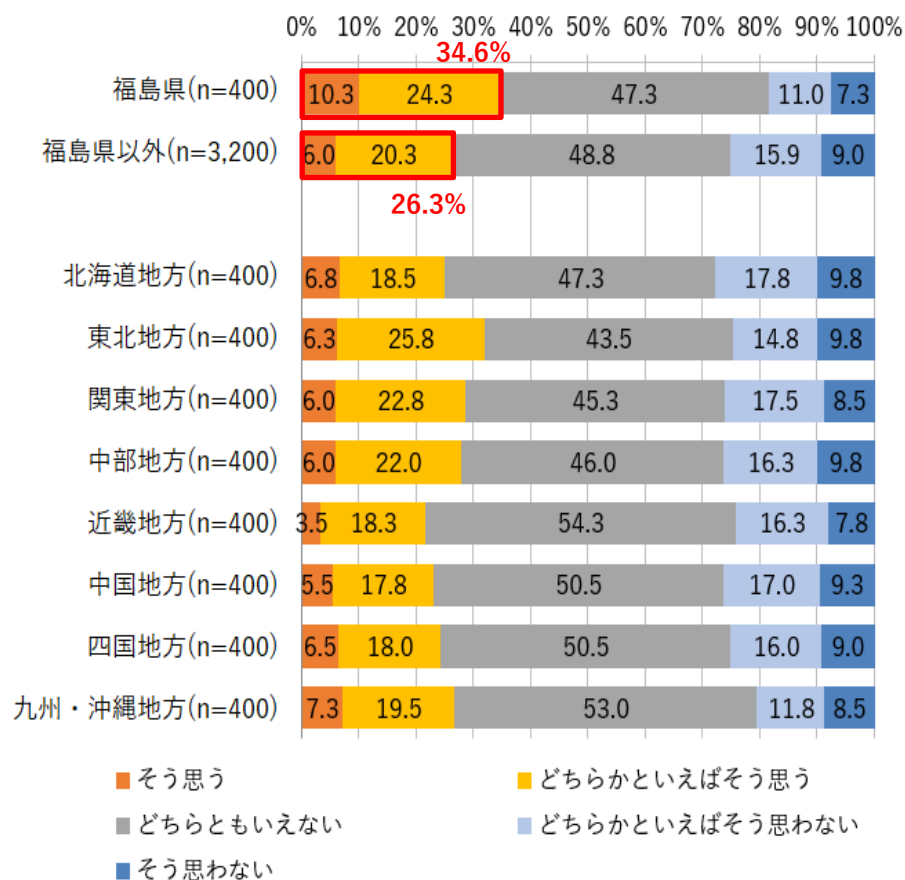
※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

Q16の回答

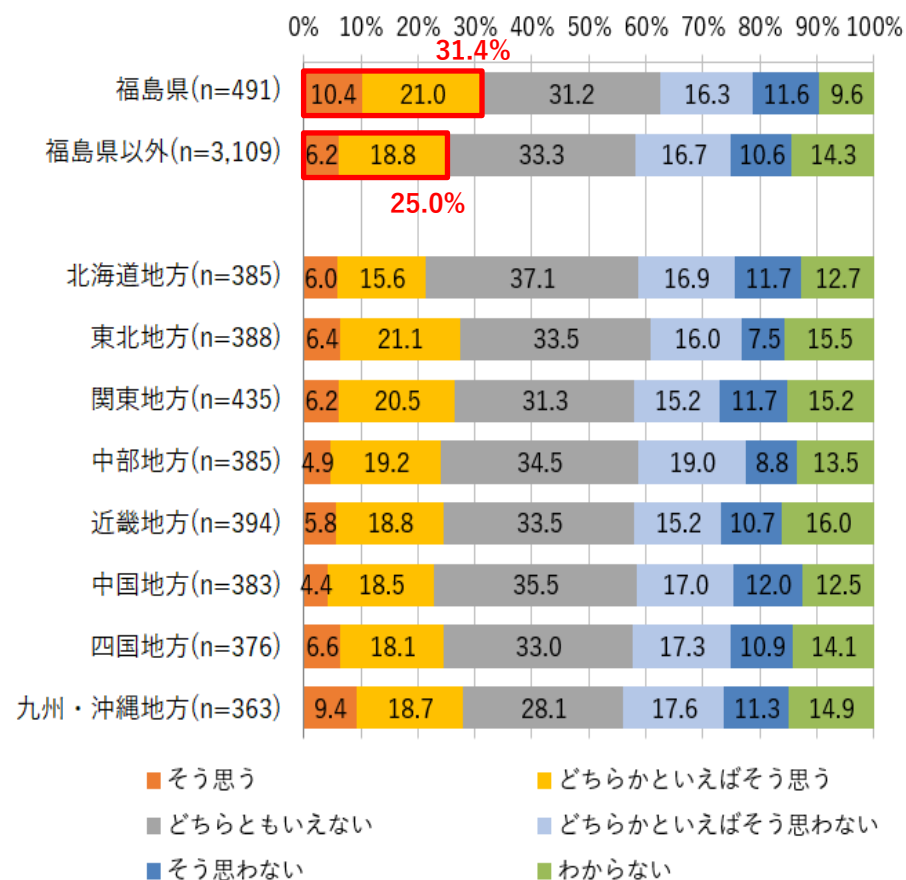
Q16：あなたは、除去土壌の復興再生利用を進めることについて、社会的に理解を得ることは可能であると思いますか。

「そう思う」「どちらかといえばそう思う」を合わせた回答は、福島県では約34%、福島県以外では約26%となっており、増加している。また、「そう思わない」「どちらかといえばそう思わない」を合わせた回答は、減少している。

【令和7年度】



【令和6年度】



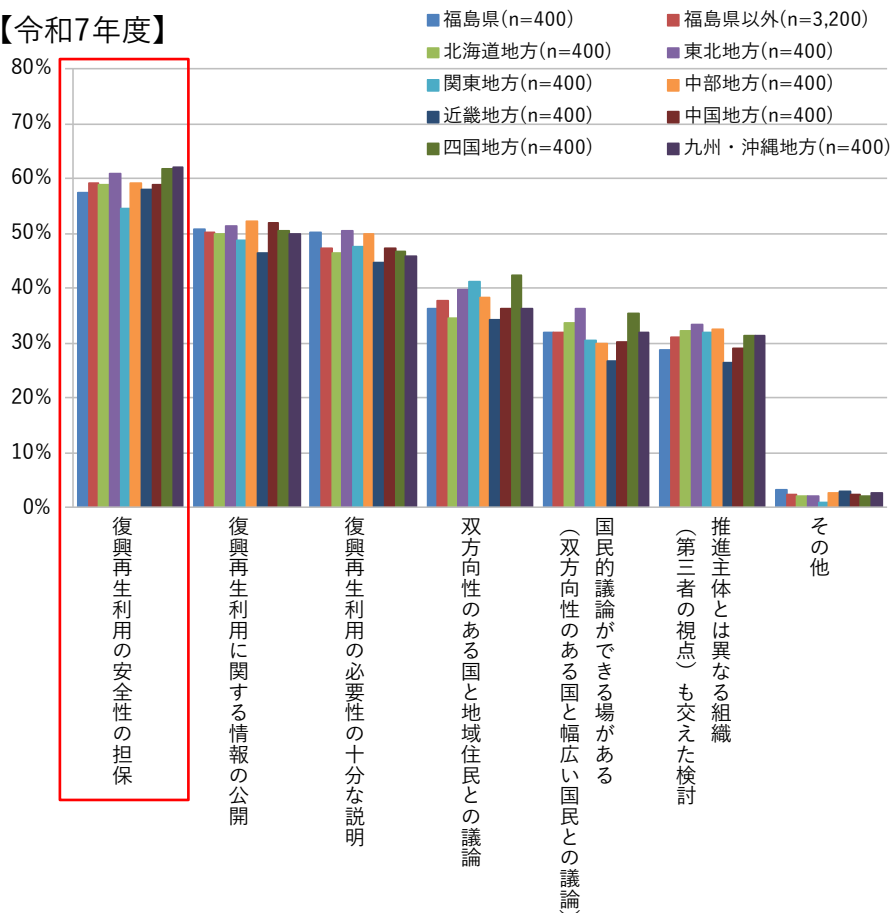
※令和7年度は「わからない」の聴取なし

Q17の回答

Q17：除去土壌の復興再生利用を進めることについて社会的に理解を得る上でどのような条件が整っている必要がありますか。
(複数回答)

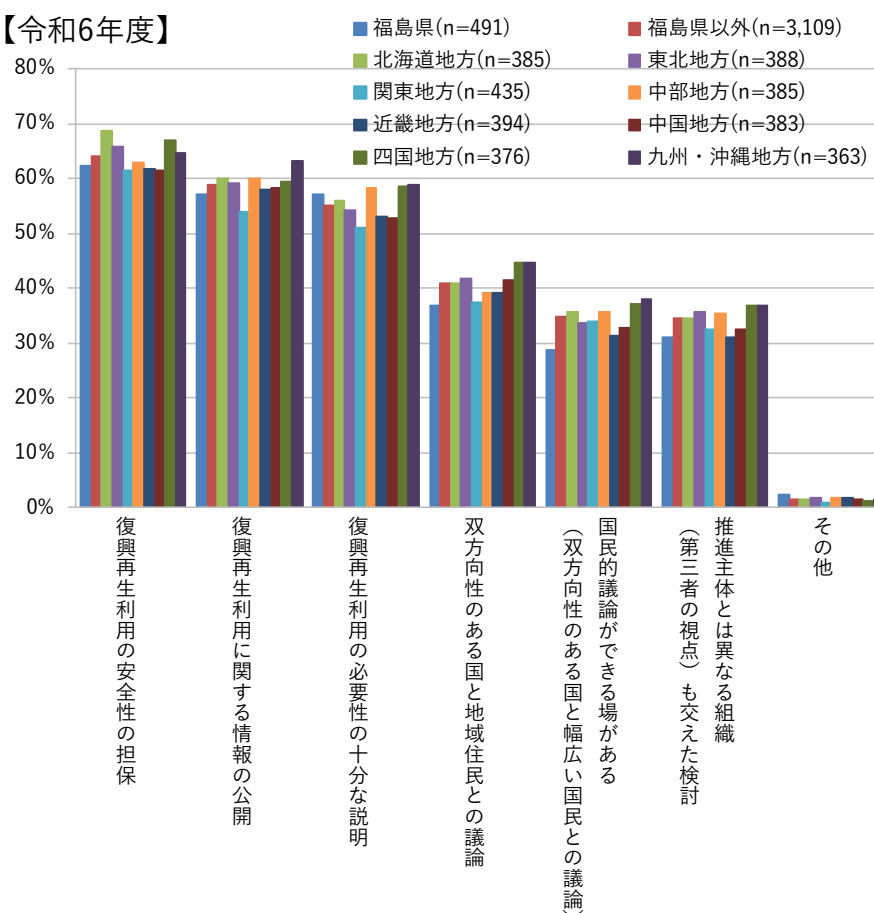
全地域において「復興再生利用の安全性の担保」が多い。

【令和7年度】



※全体の値を基準に降順並び替え

【令和6年度】



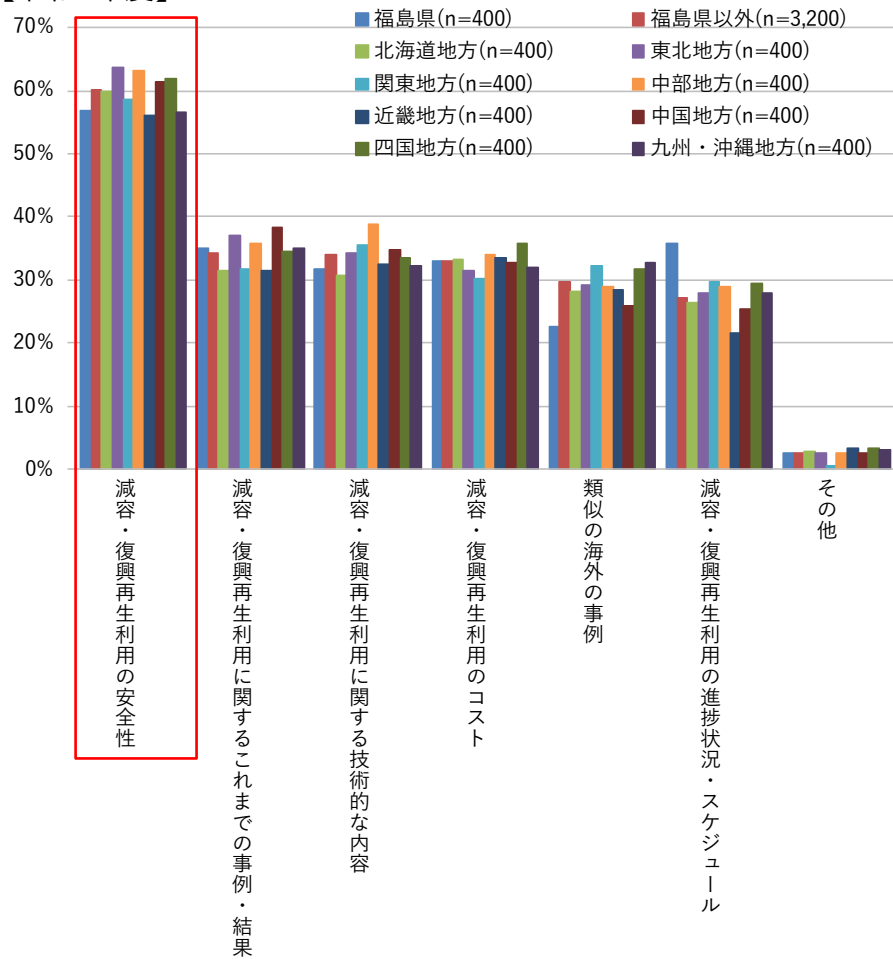
※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

Q18の回答

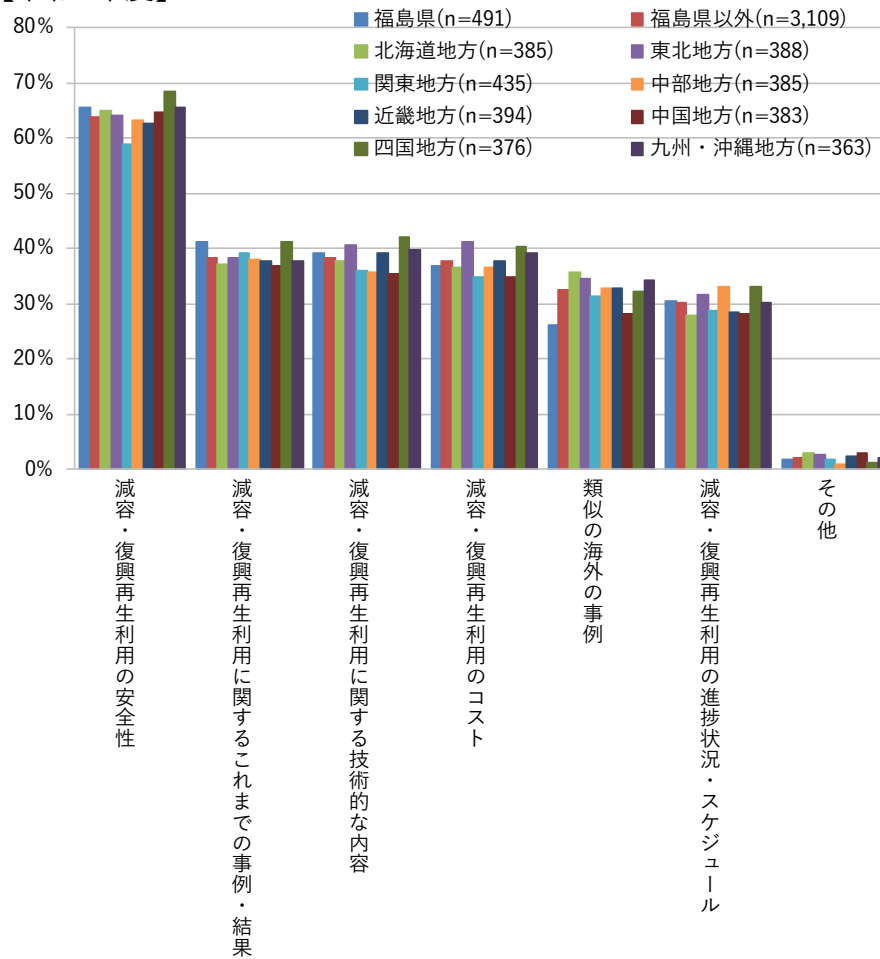
Q18：除去土壌の復興再生利用に関する以下の内容で特に関心のある事項をお答えください。（複数回答）

全地域において「減容・復興再生利用の安全性」が多い。

【令和7年度】



【令和6年度】



※全体の値を基準に降順並び替え

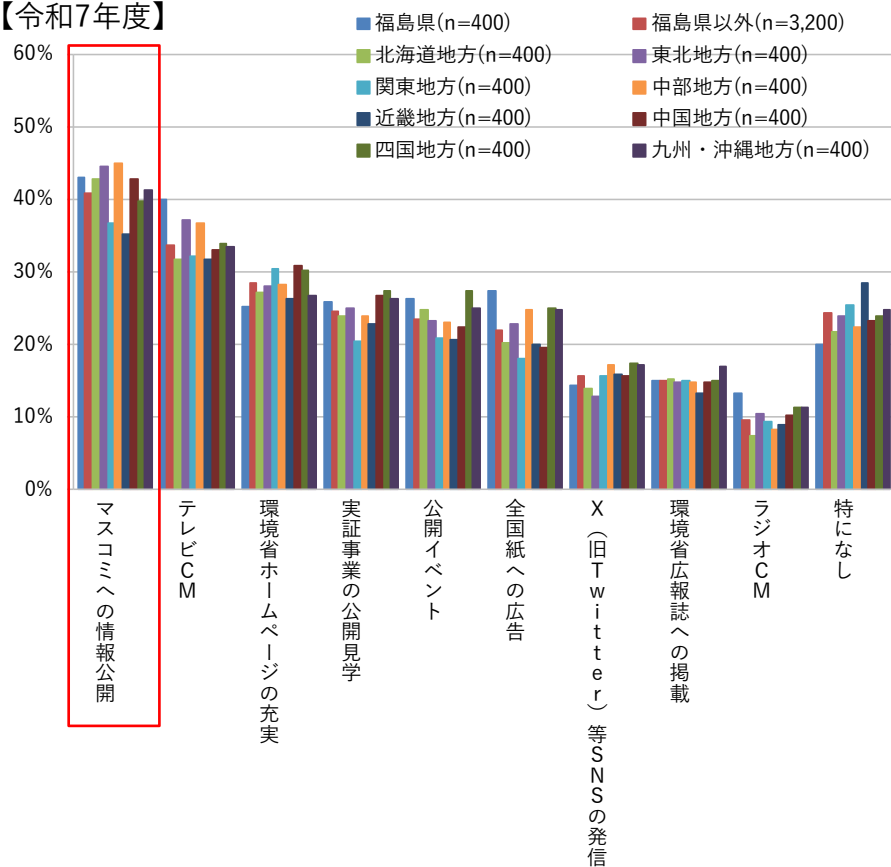
※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

Q19の回答

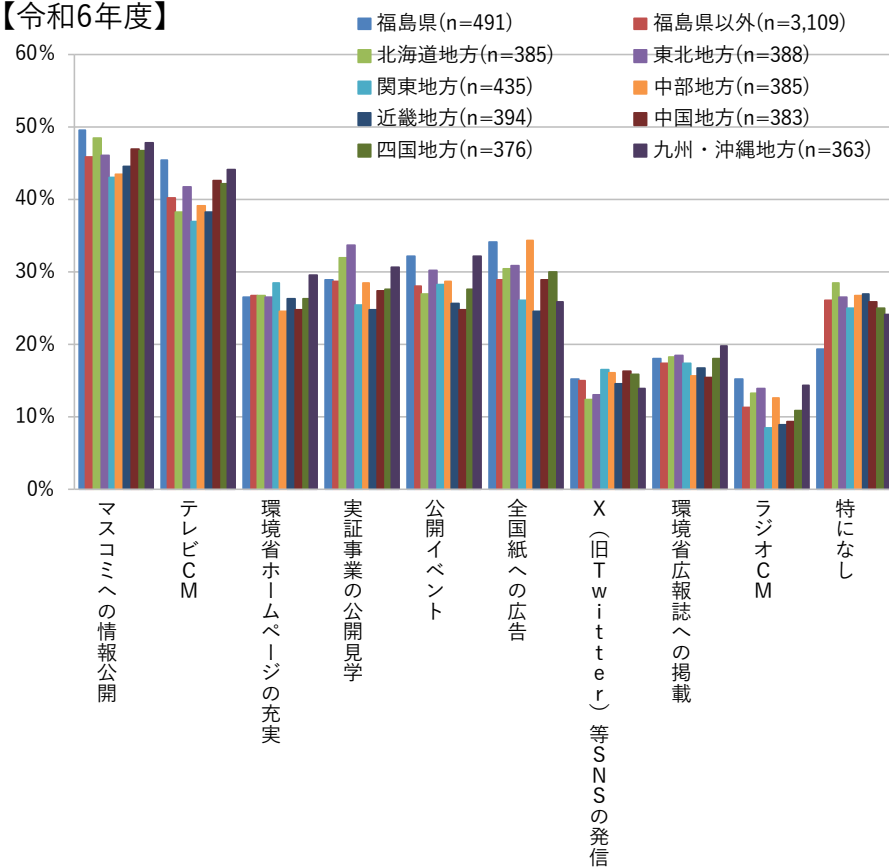
Q19：除去土壌の復興再生利用の理解を深めるために、環境省が実施すべきことは何だと思えますか。（複数回答）

全地域において「マスコミへの情報公開」が多い。

【令和7年度】



【令和6年度】



※全体の値を基準に降順並び替え

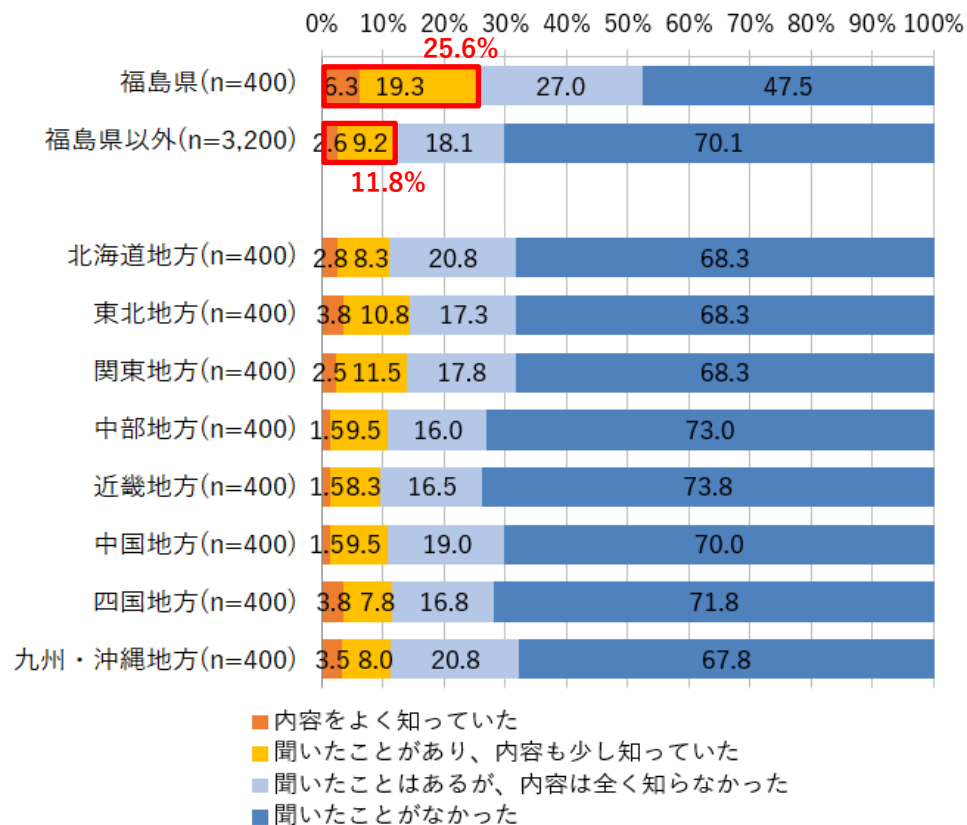
※令和7年度の全体の値を基準に降順並び替え

Q20の回答

Q20（新規）：あなたは、除去土壌の復興再生利用について、政府より国際的な安全基準に基づいたガイドラインが公表され、ロードマップに基づき積極的に推進することが示されたことを、どの程度ご存じでしたか？

「内容をよく知っていた」「聞いたことがあり、内容も少し知っていた」を合わせた回答は、福島県では約25%、福島県以外では約11%となった。

【令和7年度】

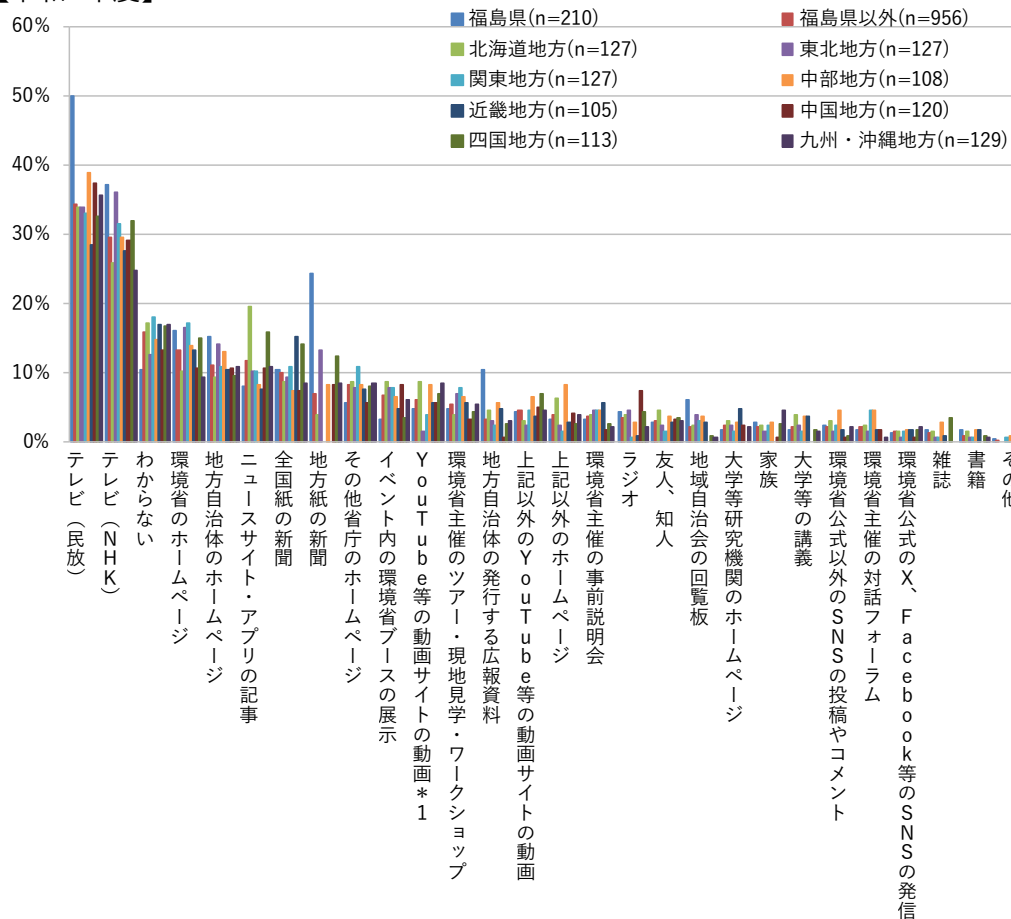


Q21の回答

Q21（新規）：あなたは、除去土壌の復興再生利用の積極的な推進の提示について、何で情報を得ましたか。（複数回答）

全地域において「テレビ（民放・NHK）」が多い。

【令和7年度】



※全体の値を基準に降順並び替え

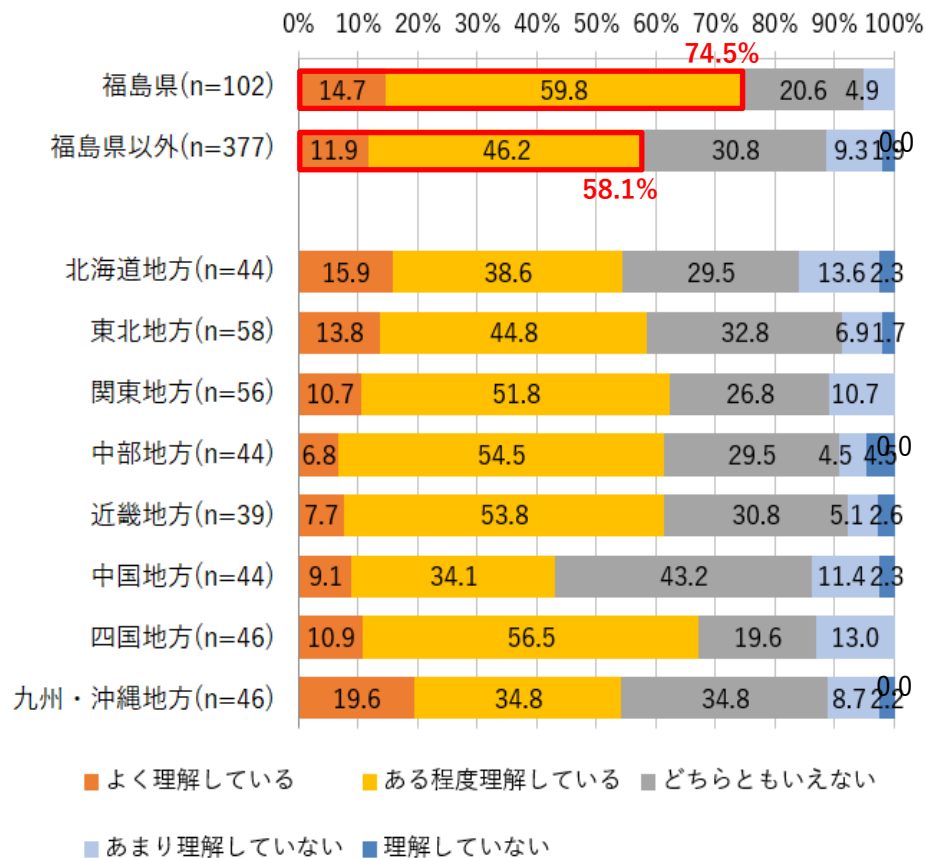
*1 環境省のyoutubeチャンネル又は環境省と連携したyoutube動画

Q22の回答

Q22（新規）：あなたは、除去土壌の復興再生利用の推進にあたり、そのガイドラインやロードマップについて、どの程度理解していますか？

「よく理解している」「ある程度理解している」を合わせた回答は、福島県では約74%、福島県以外では約58%となった。

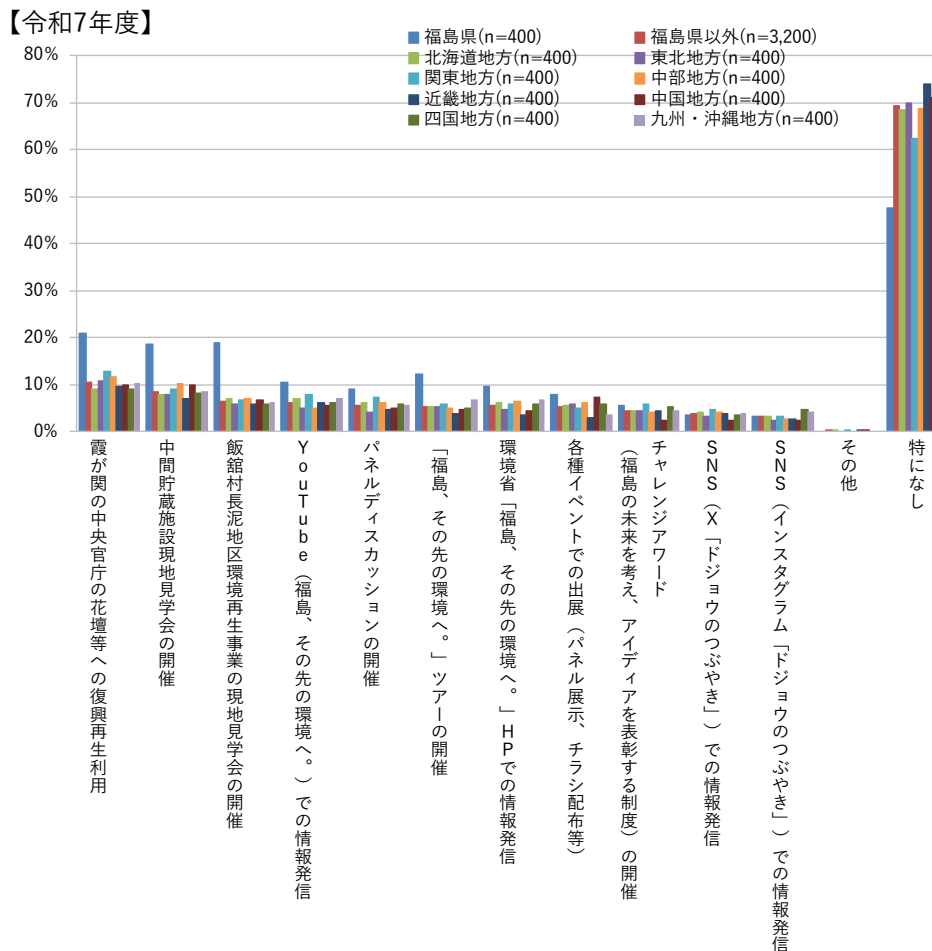
【令和7年度】



Q23の回答

Q23（新規）：除去土壌の復興再生利用等の理解醸成のために、環境省が実施する取組について、知っているものを教えてください。（複数回答）

「特になし」を除くと、「霞が関の中央官庁の花壇等への復興再生利用」が多い。



※全体の値を基準に降順並び替え

*1 環境省のyoutubeチャンネル又は環境省と連携したyoutube動画